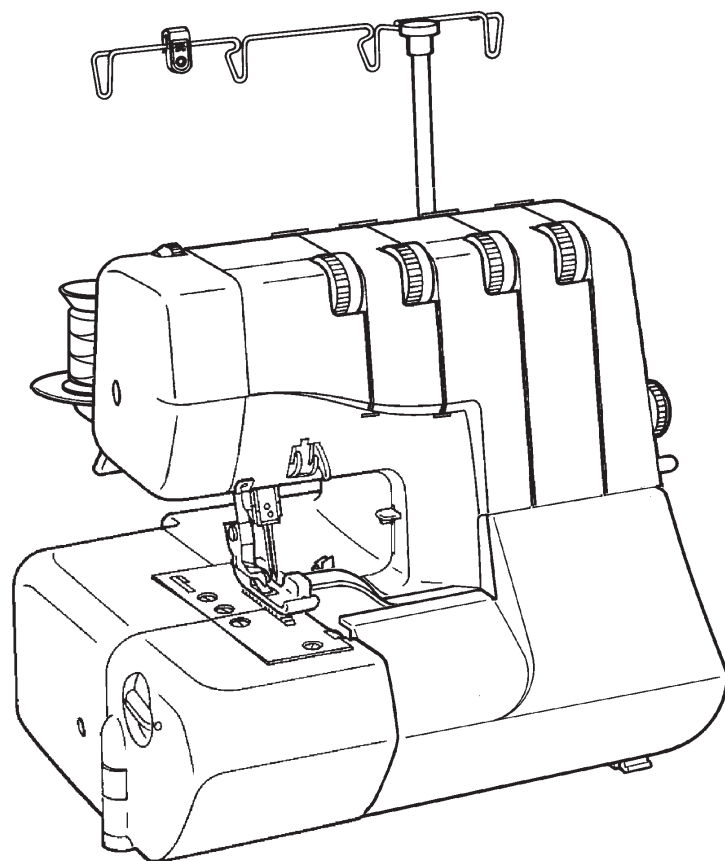




# JAGUAR



## EL-487DW

★ご使用前にこの『取扱説明書』を十分お読み下さい。

★この『取扱説明書』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。

# 取扱説明書

## = 安全にご使用いただくために =

- ◎ご使用の前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

### 絵表示について

この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用できるように、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。



警告：取り扱いを誤った場合、人が死亡又は重傷を負う危険が生じる事が想定される内容を示しています。



注意：取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。

絵表示の例



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。


















記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。



記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。












## 警告

### 感電、火災の恐れがあります

<p> 禁止</p> <p>このミシンは国内専用です。 一般家庭用交流電源 100 V 以外の電圧では使用しないでください。 異なる電圧で使用すると火災・感電の原因となります。</p>	<p> ぬれ手禁止</p> <p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電やけがの原因になります。</p>
<p> プラグを抜く</p> <p>以下のような時は電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。プラグを差し込んだままにしておくと、思わぬ火災や感電の原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンのそばを離れる時</li> <li>・ミシンを使用しない時</li> <li>・ミシンのお手入れをする時</li> <li>・ミシンを移動させる時</li> <li>・ミシン使用中に停電した時</li> </ul>	<p> プラグを抜く</p> <p>コンセントから抜く時は、コードを持たずに必ずプラグを手で持って抜いてください。 コードを引っ張ると内部で脱線し、感電や発火につながる恐れがありますので大変危険です。</p> <p> 禁止</p> <p>電源コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、何かに巻きつけたりしないでください。 また、コードが重いものの下敷きにならないようにしてください。 コードが内部で脱線したり破損して、火災・感電の原因になります。</p>
<p> 水ぬれ禁止</p> <p>ミシン、電源コード、電源プラグ等を水につけたり濡らしたりしないでください。 また、浴室や加湿器のそばなど水がかかるような場所や湿気の多い場所では使用しないでください。 火災・感電の原因となりますので、万一濡れた場合は絶対に使用しないでください。</p>	<p> 分解禁止</p> <p>お客様自身での修理、分解、改造はしないでください。 火災・感電・けがの原因になります。 修理が必要な場合は、お買い上げの販売店か販売元までご相談ください。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンの内部に金属類や燃えやすいものなどの異物や水分を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。 火災・感電の原因となりますので、特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>	<p> 禁止</p> <p>ミシンの上に乗らないでください。 倒れたりこわれたりしてけがの原因となることがありますので、特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンを極端に傾けたり、前後左右に激しく動かさないでください。 感電や故障の原因になります。</p>	<p> 禁止</p> <p>ほこりの多いところで使用しないでください。 電源プラグの刃や刃の取付面にほこりが付いている時は、乾いた布でふき取ってください。 そのまま差し込むと火災の原因になります。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンをぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。 また、毛布やクッションなどの柔らかいものの上にも置かないでください。 落ちたり倒れたりして、けがや火災の原因になります。</p>	<p> 注意</p> <p>ミシンを操作中にネクタイ・ネックレス・髪などを針周辺に引き込まれないようにしてください。 万一引き込まれてしまった場合は、ただちに電源を切って取り除いてください。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンの通風孔をふさがないでください。 内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>	<p> 禁止</p> <p>雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。 感電の原因になります。</p>

## ⚠️ 注意

### 感電、火災、けがの原因となります

 <p>禁止</p> <p>ミシンには正規の部品（針等）をご使用下さい。</p>	 <p>注意</p> <p>お子様のご使用になる時やお子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。</p>
 <p>注意</p> <p>最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始めてください。</p>	 <p>禁止</p> <p>以下のことをする時は、電源スイッチを切ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>針、針板、押え、アタッチメント、メスを交換するとき</li><li>針糸、ルーパー糸をセットするとき</li><li>ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行って下さい）</li><li>『使用説明書』に記載のあるミシンのお手入れを行うとき</li></ul>
 <p>注意</p> <p>ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、ルーパー、メス、などすべての動いている部品に手を近づけないでください。</p>	 <p>禁止</p> <p>ミシンを動かす時は、フロントカバー、メスユニットなどのカバー類を閉じて下さい。</p>
 <p>禁止</p> <p>曲がった針はご使用にならないでください。</p>	 <p>注意</p> <p>業務用としてのご使用はお控えください。過負荷による故障の原因になります。</p>
 <p>禁止</p> <p>縫う時は布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。</p>	 <p>禁止</p> <p>ミシンに以下の異常がある時はすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。</p> <p>正常に作動しない時</p> <ul style="list-style-type: none"><li>水にぬれた時</li><li>落下などにより破損した時</li><li>電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなった時</li><li>異常な音やにおいがする時</li></ul>
 <p>禁止</p> <p>お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。 変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。</p>	
 <p>注意</p> <p>最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。</p>	
 <p>注意</p> <p>ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの高容量の電気製品のご使用はお控えください。ミシンの動作が不正確になる場合があります。</p>	

※ 製品のデザイン、仕様は改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

# も く じ

## 1. ご使用になる前に

各部の名称.....	4	細巾縫い、巻き縫い、ピコ縫い.....	18
付属品.....	5	糸調子のとり方	
縫い始める前に行なうこと.....	6	4本糸、2本糸.....	19
フットコントローラーの使い方、		縫い目長さの調整.....	20
電源をつなぎましょう、		がかり巾の調整.....	20
フロントカバーの開き方、		差動送り.....	21～22
メスユニットの開き方		縫い伸びしやすい布地の場合、	
糸案内棒を立てましょう.....	7	縫い縮みしやすい布地の場合、	
糸駒キャップ.....	8	差動送りのセット	
糸駒ホルダーと糸駒クッション.....	8	押え圧力調節ダイヤル.....	22
糸駒ネット.....	8	極厚地や重ね縫いをする場合.....	22
ごみ受け、布ガイドゲージ.....	9	基本的なテクニック.....	23～26
糸切り刃、押えの取りかえ方.....	9	外角縫いの手順、内角縫い、	
針の取りかえ方.....	10	カーブ縫い、縫い目の解き方、	
布地に合った針と糸の使い方.....	10	芯ひも入り（強化）縁かがり縫い、	
		飾り縫い	

## 2. さあ縫ってみましょう

糸を通しましょう	
下ルーパー糸を通します.....	11
上ルーパー糸を通します.....	12
針糸を通します.....	13
知っておくと便利なこと.....	14
糸の交換、針糸の便利な切り方	
試し縫い.....	15
いろいろな縫い方とミシンのセット.....	16
1本針／3本糸オーバーロック縫い.....	17
2本糸オーバーロック縫い.....	17
2本糸ルーパーの取りつけ方	

## 3. ミシンの手入れ

可動メスの取りかえ方.....	27
電球の取りかえ方.....	27
掃除と注油.....	28

## 4. ミシンに異常がある場合..... 29

## 5. 別売付属品 ..... 30～33

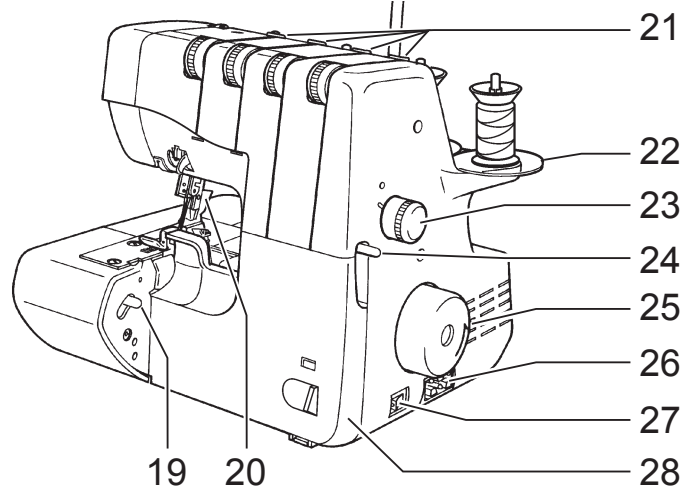
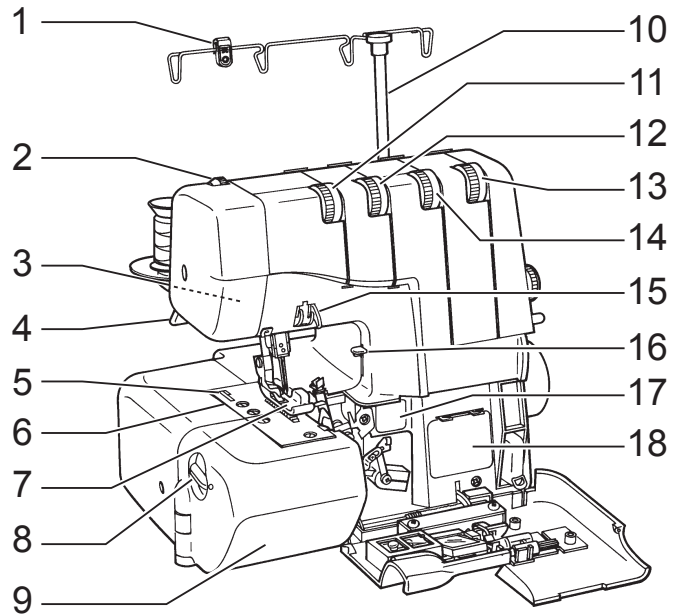
### ミシンの仕様

項 目	仕 様
使 用 糸 数	4／3／2本糸
か が り 巾	6mm（左）、3.8mm（右）
使 用 針	BL×4, HAX1SP, HAX1（130／705H）
縫 い 目 長 さ	1－5mm
縫 い 速 度	1300針／分
大 き さ	巾331mm×高さ315mm×奥行281mm
重 量	8.76Kg

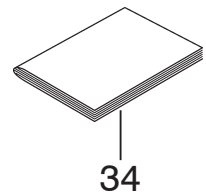
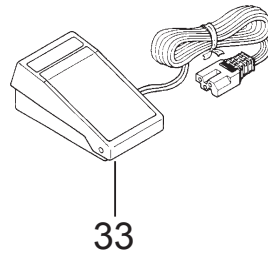
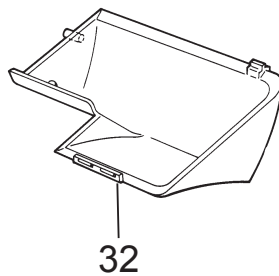
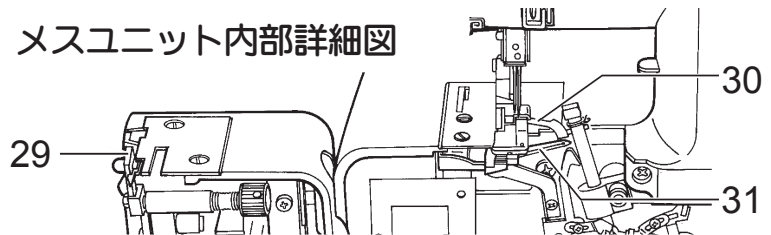
# 1. ご使用になる前に ……

## 各部の名称

1. 芯ひも案内
2. 押え圧力調節ダイヤル
3. 電球
4. 押え上げ
5. 糸切り刃
6. 針板
7. 押え金
8. かがり巾調整ダイヤル
9. メスユニット
10. 糸案内棒
11. 左針糸調子ダイヤル
12. 右針糸調子ダイヤル
13. 下ルーパー糸調子ダイヤル
14. 上ルーパー糸調子ダイヤル
15. 糸案内
16. 糸切りレバー
17. 2本糸ルーパー取付説明図
18. 糸通し説明図
19. 開放レバー
20. 押え開放レバー
21. 糸案内
22. 糸駒ホルダー
23. 縫い目調整ダイヤル
24. 差動送り調整レバー
25. ※ プーリー
26. コンセント
27. 電源スイッチ (ライトスイッチ兼用)
28. フロントカバー
29. 可動メス
30. 上ルーパー
31. 下ルーパー
32. ごみ受け
33. フットコントローラー
34. 説明書



### メスユニット内部詳細図



※ このミシンは、普通のミシンと同様にプーリーは手前に回転するようになっています。



最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。

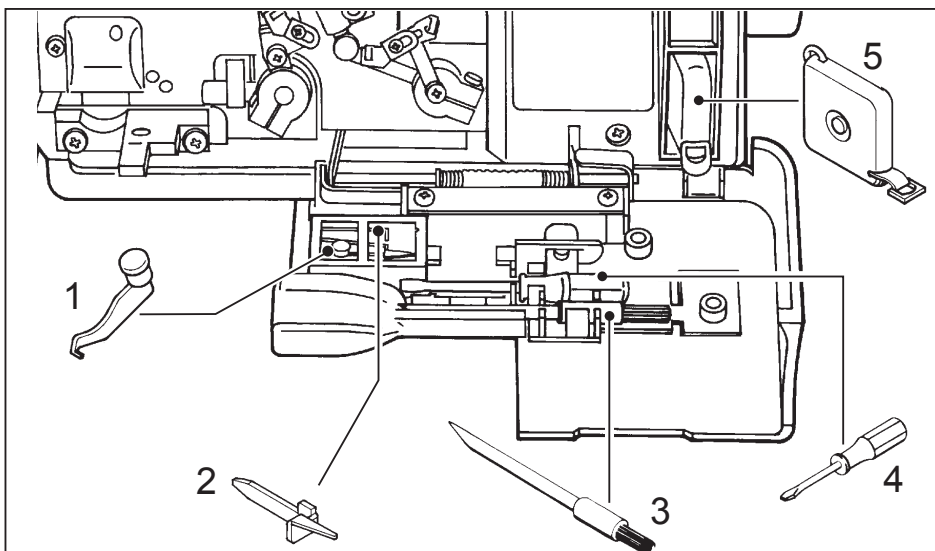


ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

## 付属品

■ 図の様にフロントカバーを開くと付属品が入っています。(フロントカバーの開き方: 6ページ参照)

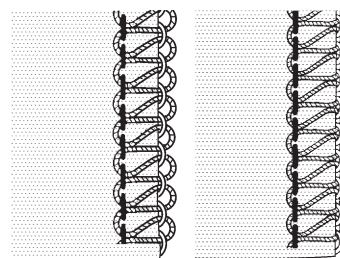
1. 2本糸ルーパー
2. 薄物用針板爪 (B)
3. ブラシ
4. ドライバー (小)
5. メジャー (別売)



### 薄物用針板爪 (B) の使い方

かがり巾を4-5にセットし、右針のみ使用して、薄手の布地を本糸で縫うと、糸のループが(図1)のように布の端からはみ出す場合があります。

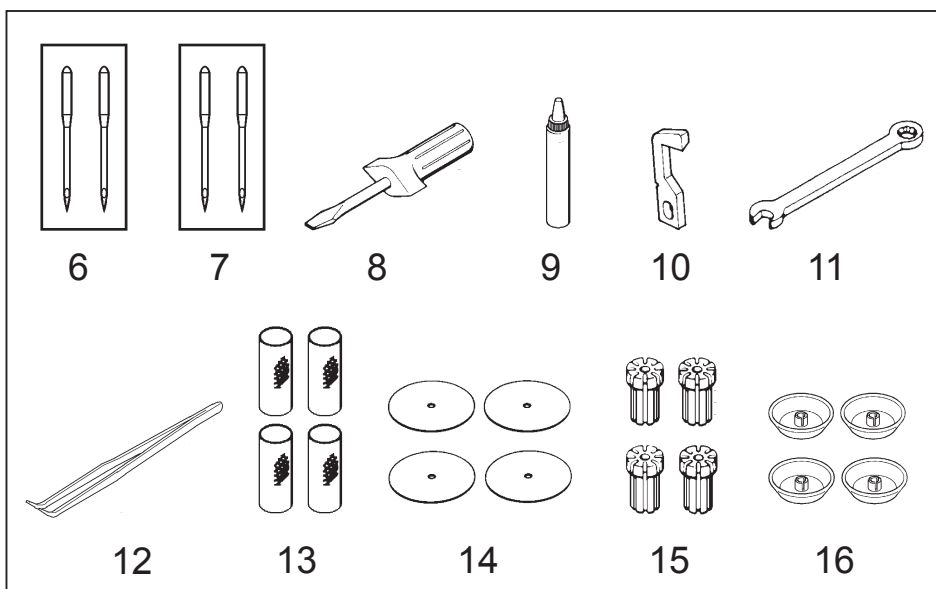
このような場合は、この薄物用針板爪に替えると、(図2)のように正常な縫い目になります。



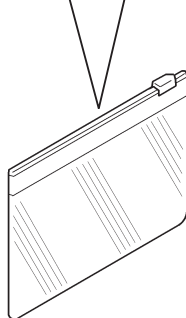
(図1)

(図2)

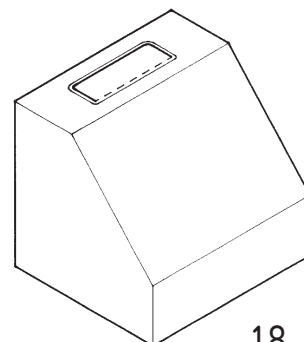
6. 針セット (#11 × 2)
7. 針セット (#14 × 2)
8. ドライバー (大)
9. ミシン油
10. 可動メス
11. スパナレンチ
12. ピンセット
13. 糸駒ネット × 4
14. 糸駒ホルダー × 4
15. 糸駒クッション × 4
16. 糸駒キャップ × 4



17. 付属品入れ
18. ミシンカバー



17



18

## 縫い始める前に行うこと

### 1. フットコントローラーの使い方

フットコントローラーの差し込みプラグを形状に合わせて矢印の方向に差し込みます。

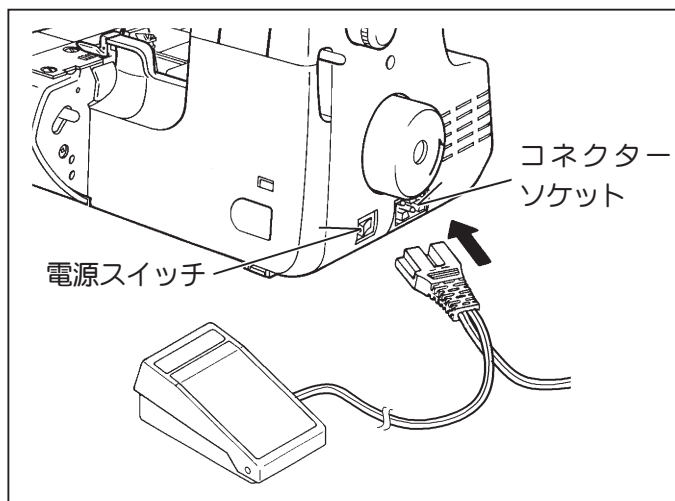
### 2. 電源をつなぎましょう

電源プラグを室内コンセントに接続します。電源スイッチを押します。この時、照明ランプも同時につきます。



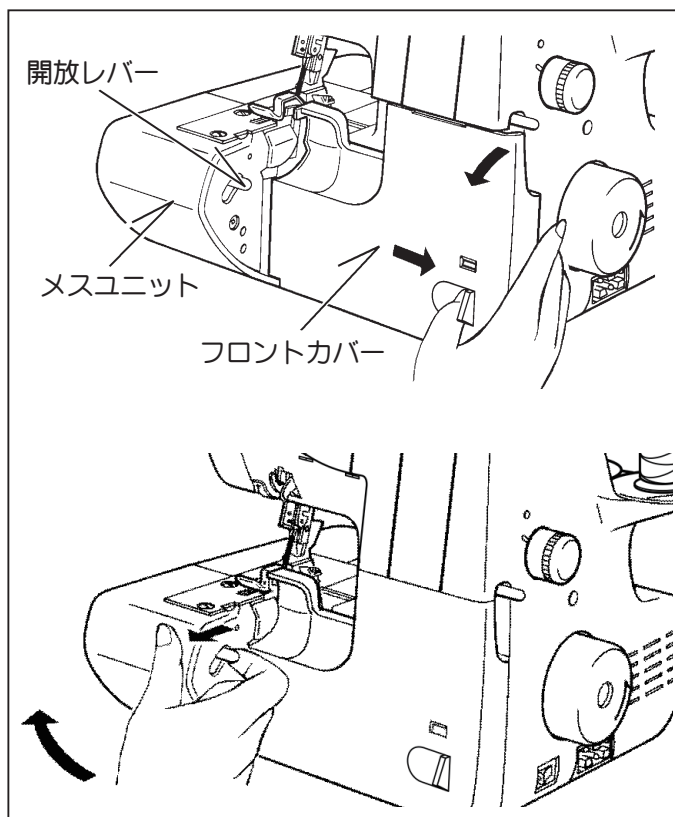
注意

ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。



### 3. フロントカバーの開き方

図のように、フロントカバーのくぼみに指をあてて右側に(→)スライドさせ、前方に(↙)カバーを引きたおします。



### 4. メスユニットの開き方

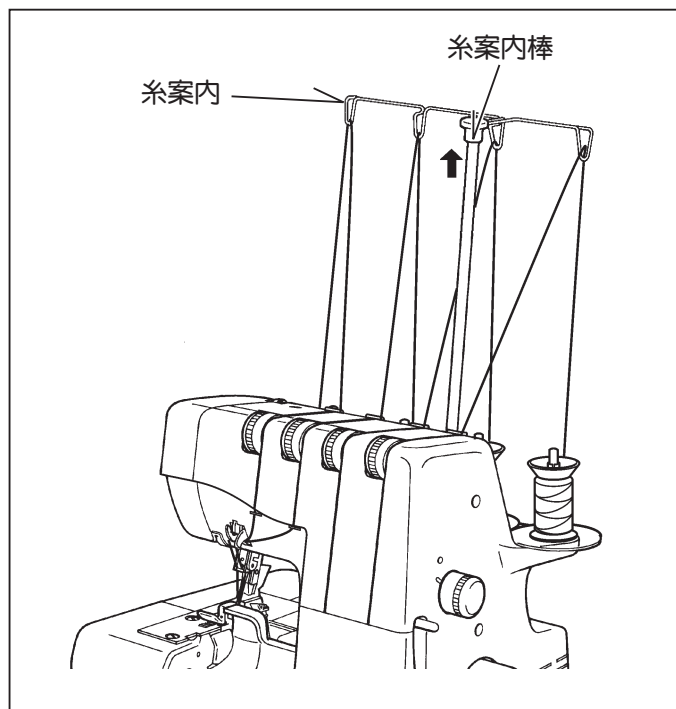
開放レバーを手前に引きますと簡単に開きます。



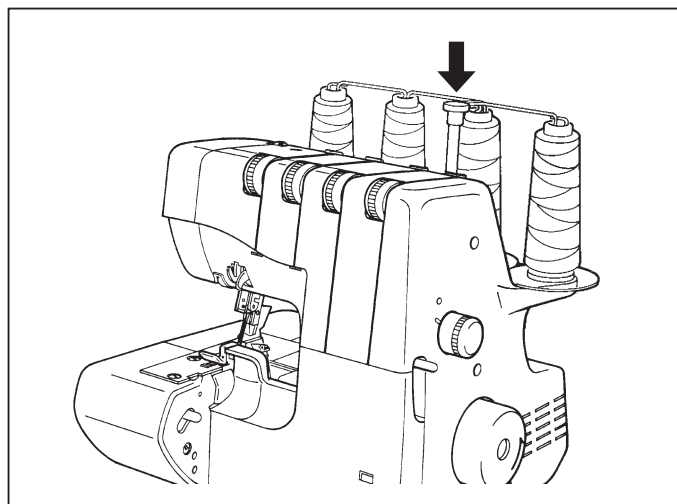
## 糸案内棒を立てましょう

糸案内棒をいちばん上まで伸ばしてください。

糸案内棒をいっぱい伸ばすのを忘れずと正常な糸調子が出ず、目飛びや糸切れなどの原因になります。



ミシンを使用しない時は、図のように糸案内棒を下げ、糸案内内部を糸ごまの穴にはめこんで収納します（チーズ巻き糸の場合のみ）。



## 糸駒キャップ

ボビン巻き糸をご使用になる場合には、糸駒クッションをはずし、付属の糸駒キャップを糸立棒にはめてください。

## 糸駒ホルダーと糸駒クッション

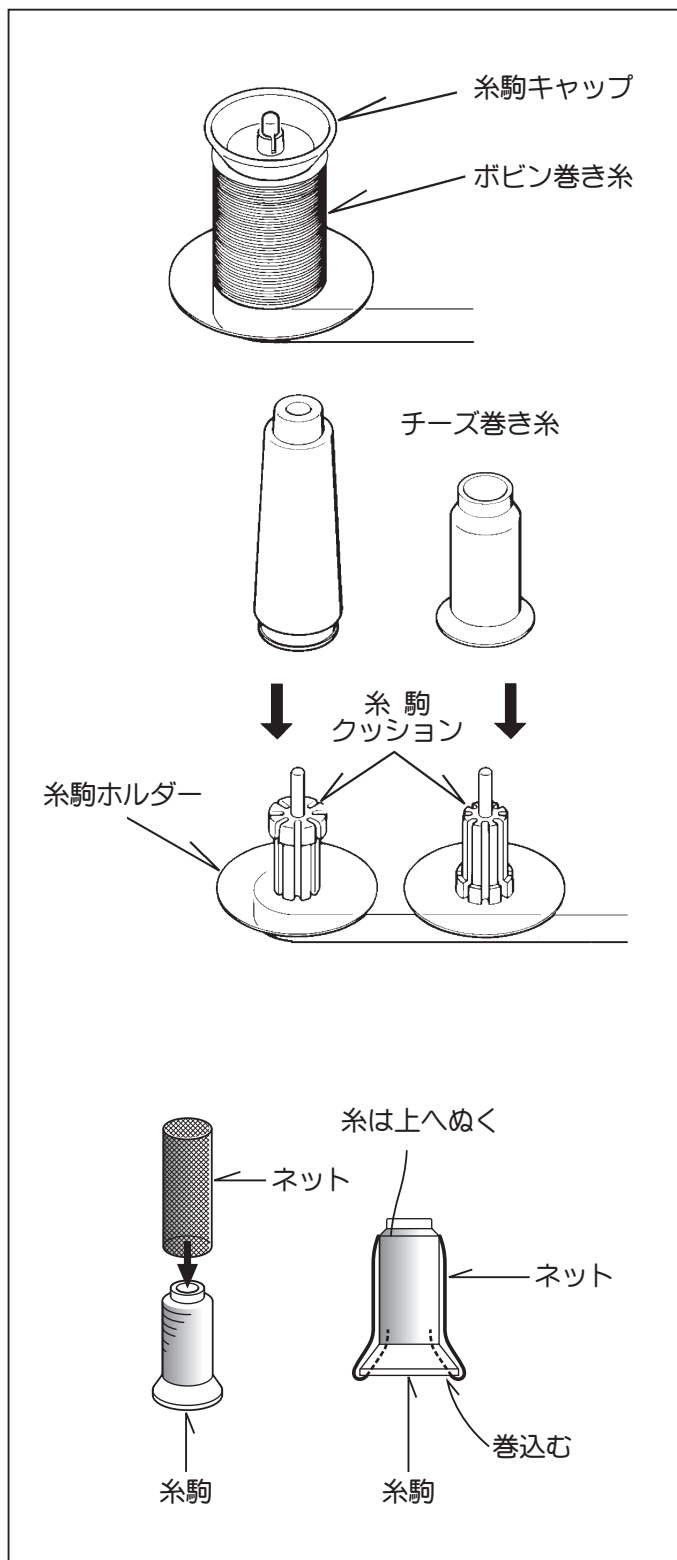
糸駒ホルダーと糸駒クッションを糸立棒に取りつけます。

径の大きいチーズ巻き糸を使用される場合は、糸駒クッションの径の大きい方を上に向けて糸駒を固定してください。

径の小さい巻き糸を使用される場合は、クッションの径の小さい方を上に向けて固定してください。

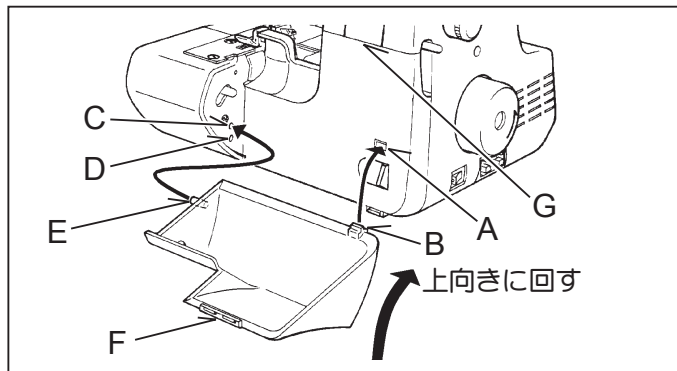
## 糸駒ネット

巻きがくずれやすいテトロン糸やウーリーナイロン糸をご使用の際には、付属の糸駒ネットをおかけください。糸調子のくるいを防止し、スムーズな糸送りを約束します。



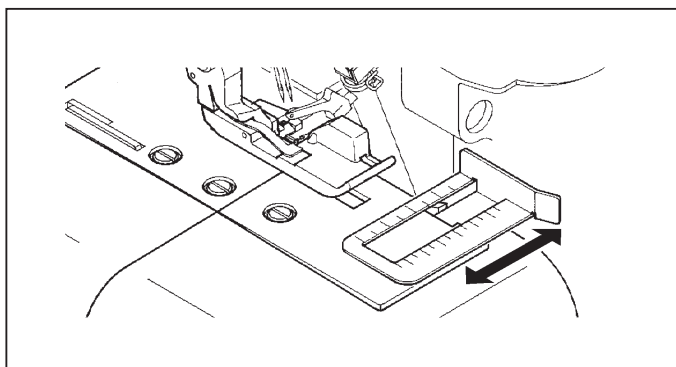
## ごみ受け

図のように穴 (C) にピン (E) をさし込み、突起 (B) を (A) にはめ込んで取り付け、布地の切れ端を受けます。裁縫が終わったら、穴 (D) にピン (E) をさし込み、上向きに回して突起 (F) を (G) にはめ込んでください。



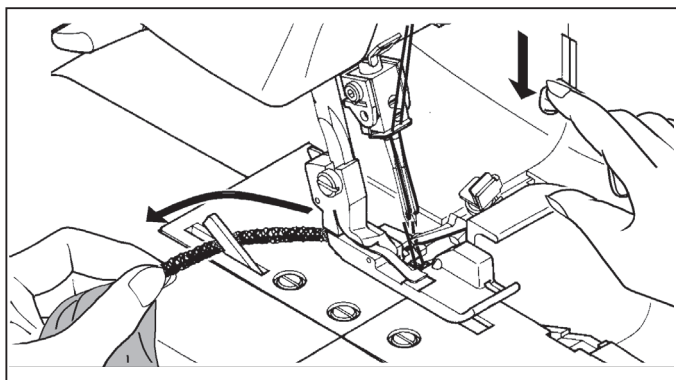
## 布ガイドゲージ

図のようにメスユニットに差し込み、希望の位置に調整します。



## 糸切り刃

図のように右手で糸切りレバーを押し下げ、糸を刃の下に通し、右手を離しますと、糸が切れます。



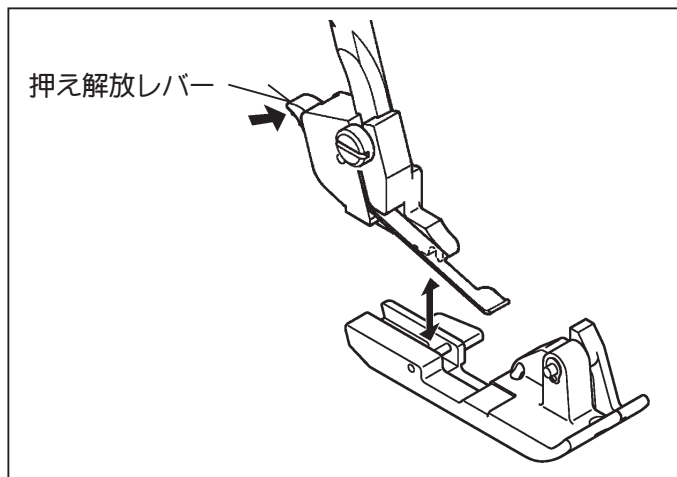
## 押えの取りかえ方

押えと針を上げます。

押え解放レバーを矢印の方向に押しすと、押えがはずれます。

針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。

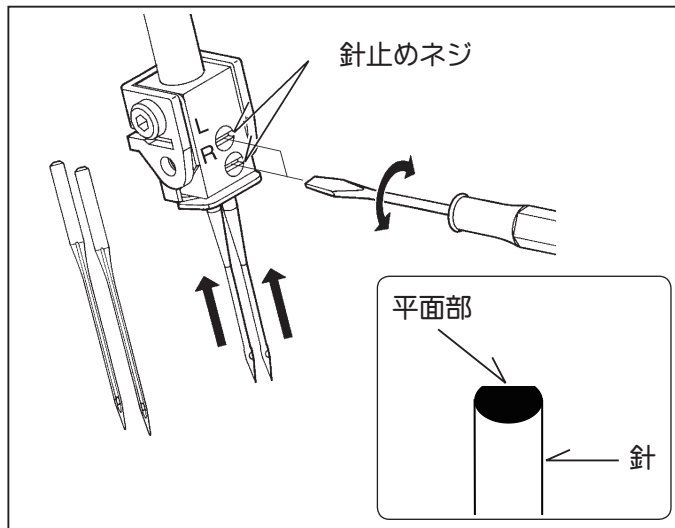
押え上げを下げると押えがセットされます。



## 針の取りかえ方

このミシンには、あらかじめBL×4 No.14の針が取り付けられています。針が曲がっていたり、針先がつぶれていれば、ただちに、新しい針と交換してください。又、針が布地に合っていない場合も、適当な針に取りかえてください。

1. プーリーを手前に回して針棒をいちばん上まであげてください。
2. 針止めネジを付属のドライバーでゆるめ、針をはずします。
3. 針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針棒に差し込みます。
4. 針を針棒の溝穴の一番上までいっぱい差し込み、針止めネジをしっかりとめます。



**注意** 針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってください。

## 布地に合った針と糸の使い方

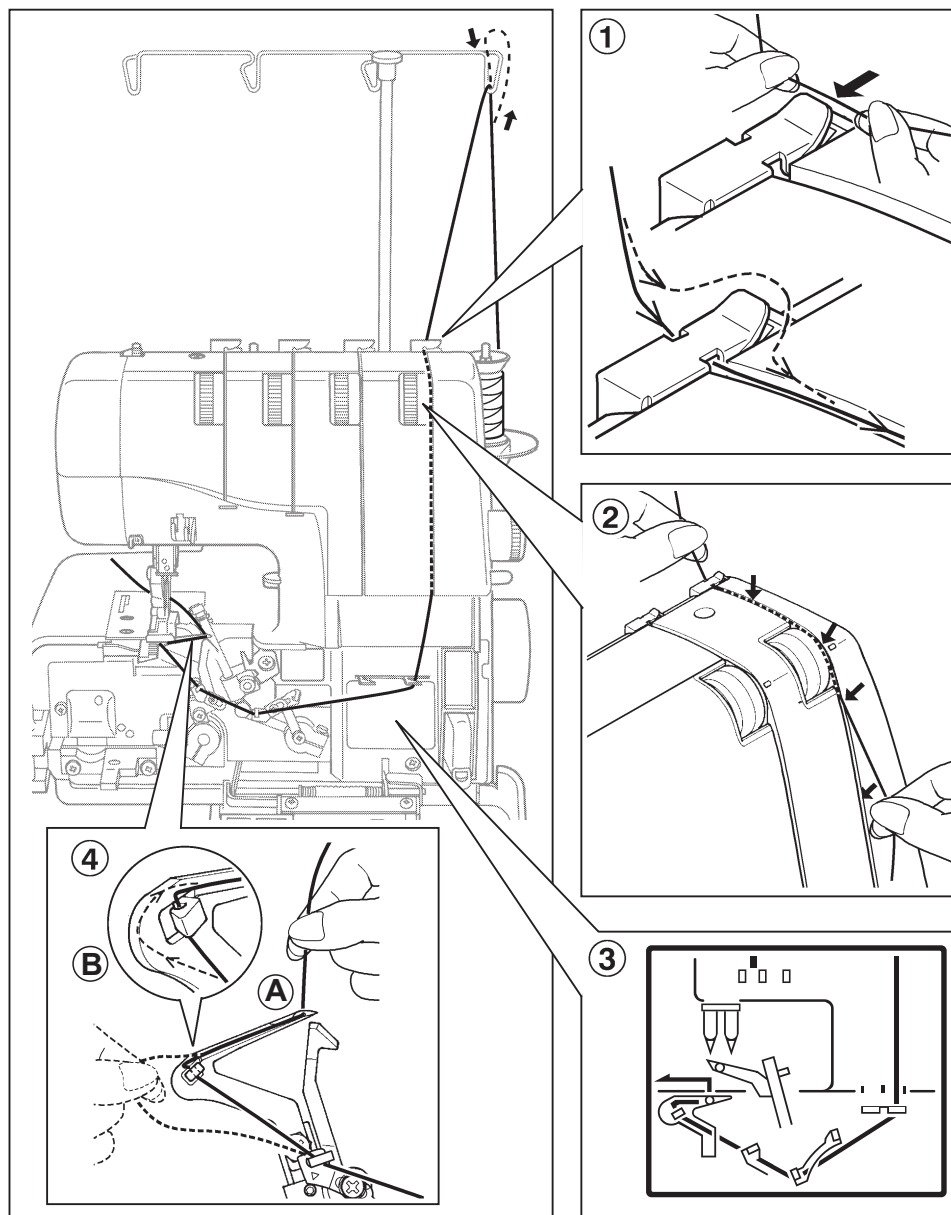
布地		糸 (番手が大きいほど細くなります)	針 (番手が大きいほど太くなります)
木綿 麻	薄手	オーガジー・ローン・ギンガム	スパン糸 テトロン糸 No. 80 綿糸 No. 100
	厚手	オックスフォード・デニム・綿ギャバ	スパン糸 テトロン糸 No. 60 ~ No. 50 綿糸 No. 100
毛	薄手	トロピカル・ポーラ・ウール・ポプリンなど	スパン糸 テトロン糸 No. 80 綿糸 No. 80
		サージ・ギャバジン・フラノなど	スパン糸 テトロン糸 No. 80 ~ No. 60 綿糸 No. 60
	厚手	ベロア・キャメル・アストラカンなど	テトロン糸 No. 60 ~ No. 50 綿糸 No. 60
化繊 合繊 混紡	薄手	ジョーゼット・ボイル・サテンなど	スパン糸 テトロン糸 No. 100 ~ No. 80 綿糸 No. 100 ~ No. 80
	厚手	タフタ・ツイル・ベネシャン・デニムなど	スパン糸 テトロン糸 No. 60 綿糸 No. 60
ニット地		トリコット (化繊・合繊)	スパン糸 テトロン糸 No. 80 ~ No. 60 綿糸 No. 80 ~ No. 60
		ジャージ (化繊・合繊)	テトロン糸 No. 60 ~ No. 50 綿糸 No. 60
		毛糸	テトロン糸 No. 60 ~ No. 50 ウーリーナイロン

BL×4  
HA×1SP (ニット針)  
HA-1 (家庭用ミシン針)  
No. 11 No. 14

ほとんどの場合 No. 14 の針で間に合いますが、薄手の布地の場合は No. 11 の針が良い場合があります。穴糸などで飾り縫いをする場合は No. 14 を使用します。

## 2. さあ縫ってみましょう……

### 糸を通しましょう



このミシンには、あらかじめ、糸が通してあります。糸の通し方を間違えますと、目飛び、糸切れの原因となりますので、正しい糸の通し方を覚えましょう。

糸は下ルーパー、上ルーパー、針の順に通します。裁縫の途中で、下ルーパーに糸を通しなおす時は、糸がからむのを避けるため、針から糸を抜いてください。

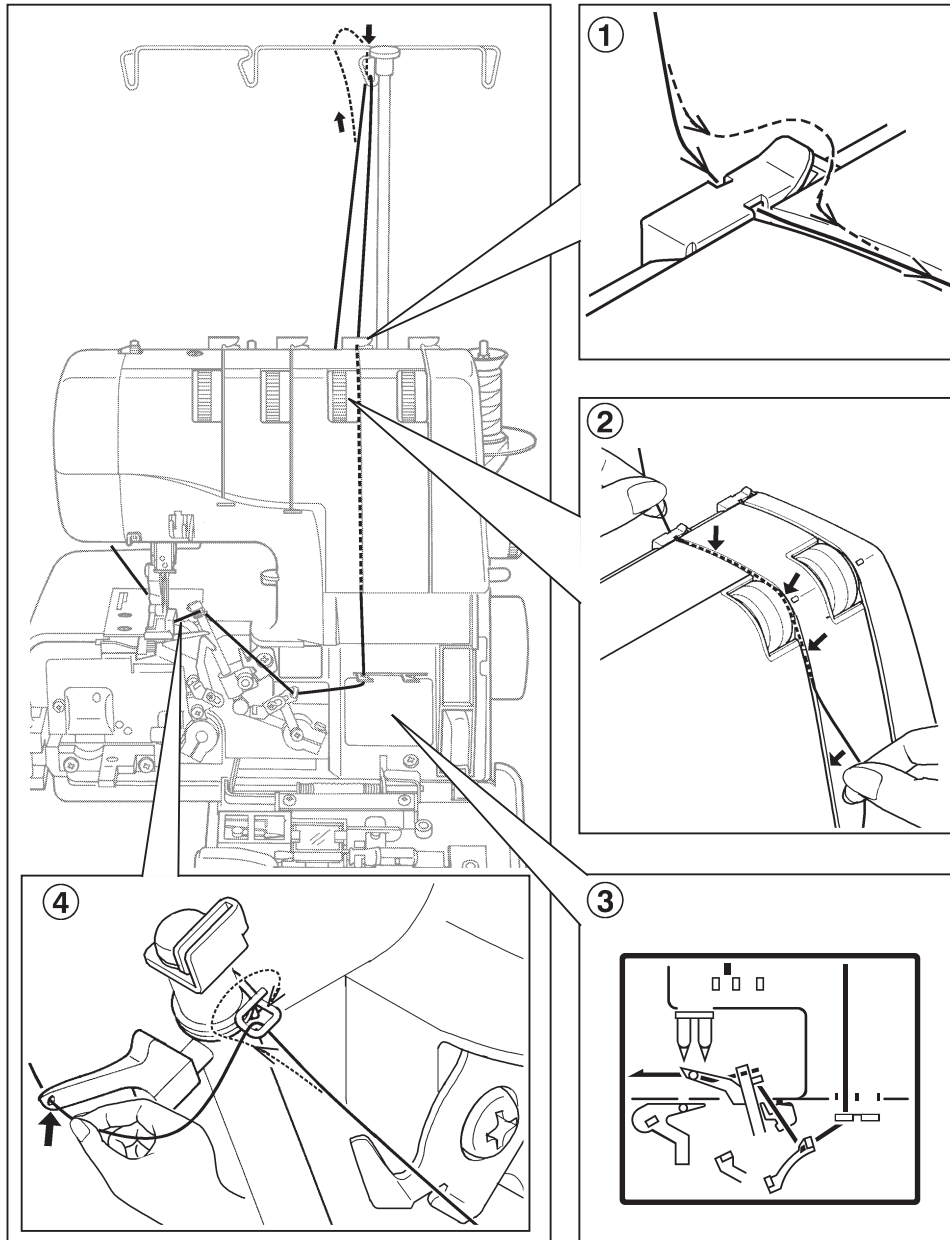
なお、フロントカバーを開けますと、糸通し説明図が貼付してありますので、参照してください。

はじめに、フロントカバー及びメスユニットを開いてください。(フロントカバーの開き方、メスユニットの開き方は6ページをご覧ください。)

押え上げを上げます。(押え上げを上げるのは、糸を糸調子皿の間に入れるためです。そうでないと、糸調子が利かず正しい糸調子が得られません。)

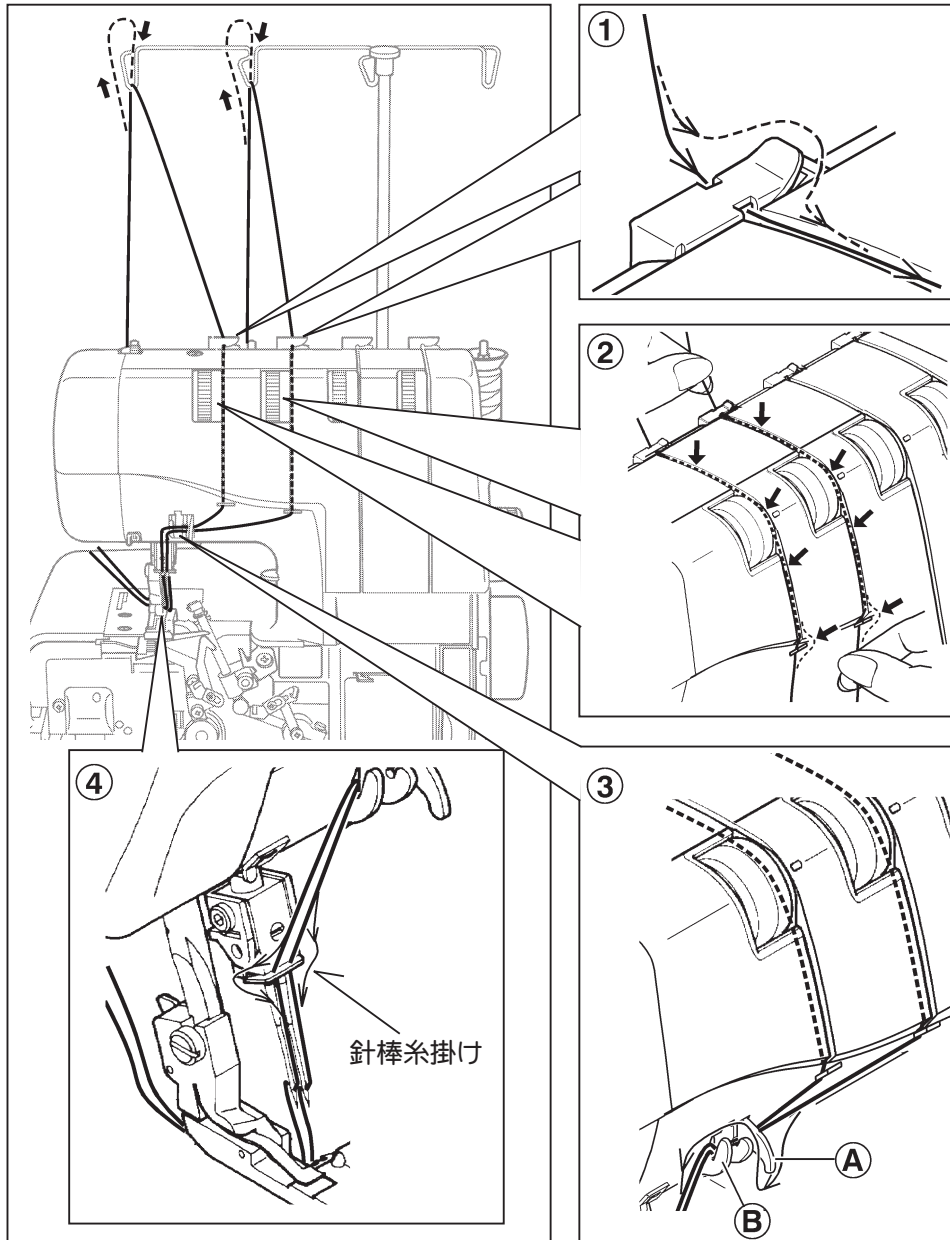
### 下ルーパー糸を通します

- ① 糸案内に糸をかけます。
- ② 糸を右端の溝深く引っぱり降ろします。糸が正しく入るとカチッと音がします。
- ③ 各糸案内に糸をかけます。
- ④ まず、下ルーパーの糸穴(A)に糸を通してから、図のように糸を矢印で示した部分(B)に引っかけます。糸は下ルーパーの穴から10cmぐらい余分に出しておきます。



## 上ルーパー糸を通します

- ① 糸案内に糸をかけます。
- ② 糸を右から2番目の溝深く引っぱり降ろします。糸が正しく入るとカチッと音がします。
- ③ 各糸案内に糸をかけます。
- ④ 糸は上ルーパーの穴から、10cmぐらい余分に出しておきます。



## 針糸を通します

- ① 糸案内に糸をかけます。
- ② 糸を溝深く引っぱり降ろします。糸が正しく入るとカチッと音がします。
- ③ 糸案内(A)の下に糸をくぐらせて(B)にかけます。
- ④ 針棒糸掛けに糸をかけます。針穴に糸を通す時は、手前から向こう側へ通し、ルーパー糸と合わせて、押え金の右側から後ろ下をくぐらせ、10cmほど左側に引き出しておきます。

\* 針穴糸通しを速く確実にできる針穴糸通し器が別売り付属品としてあります。  
(33ページをご覧ください。)

さあ、15ページを開き、実際に使用される布地の布切れで試し縫いをしてみましょう。

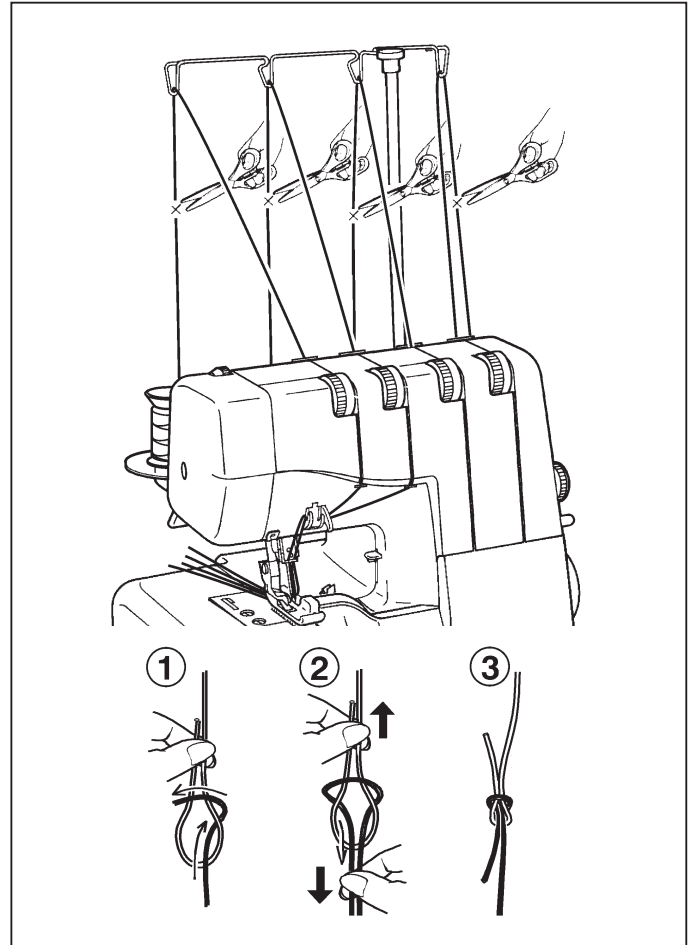
## 知っておくと便利なこと

### 糸の交換

このミシンにはあらかじめ、糸がセットされています。糸を他の糸にお換えになる時は、次のステップを踏まれると簡単にかえられます。

1. 糸巻きの近くで糸を切り、それぞれ交換する別の糸につなぎかえます(①→②→③)。
2. 押え金を上げます。
3. プーリーを逆に回して針を最下点まで下げ、上・下ルーバー糸の結び目が押えの下へ来るまで引きだします。

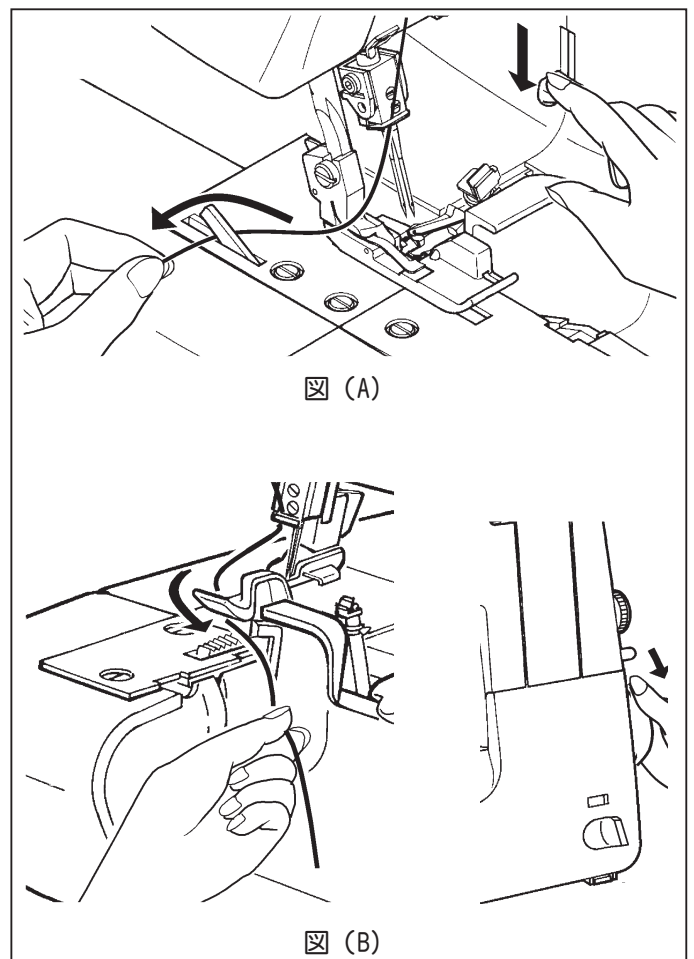
針糸を引き出す時は、針を曲げないために、つなぎ目を針穴の手前で止め、糸を切って針穴に通します。



### 針糸の便利な切り方

糸端がほぐれて針穴に糸を通しにくい場合は、図(A)のように右手で糸切りレバーを押し下げ、糸を刃の下に通した状態で右手のレバーを離すと、糸のほぐれた部分を切り取ることができます。

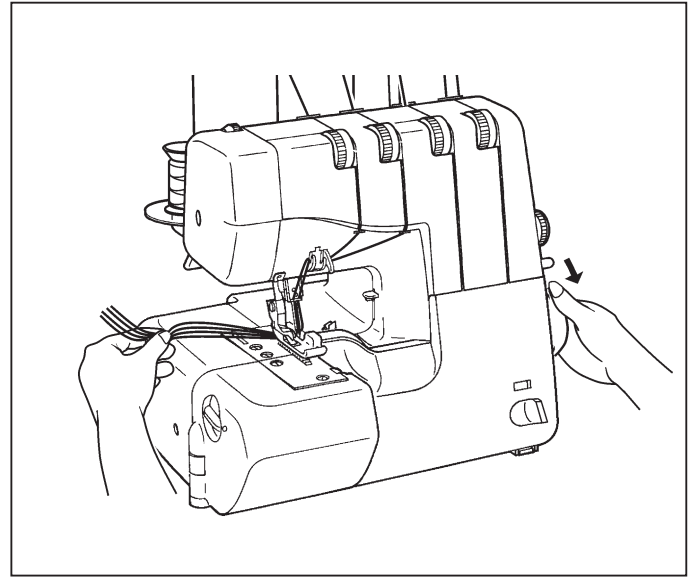
または、図(B)のように糸を可動メスの下にもってきて、プーリーを回して可動メスを下げ、糸のほぐれた部分を切り取ります。





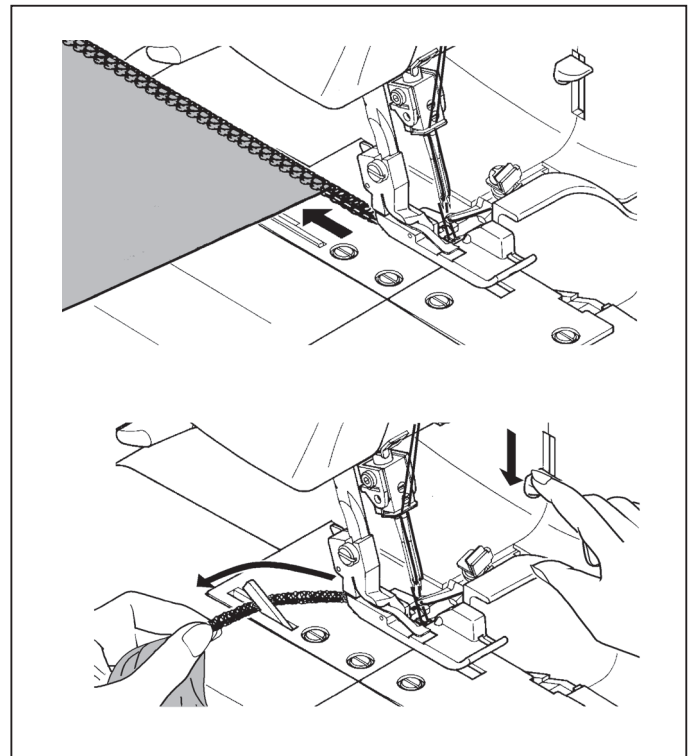
## 試し縫い

1. 押え金を下げ、図のように糸の端を左手で軽く横にひっぱり気味にして、プーリーを右手で手前（矢印の方向）に3～4回まわし、その時に出来た糸のからみぐあいを見ます。



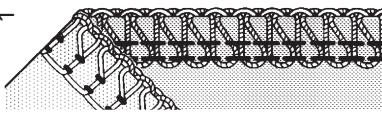
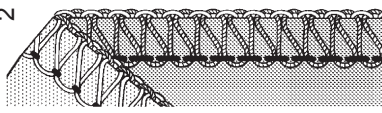
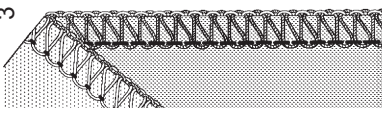
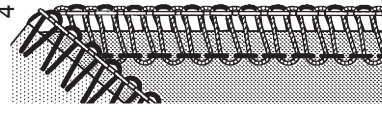
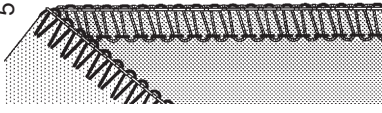
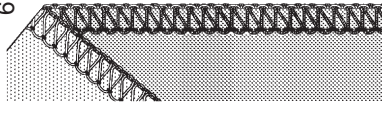
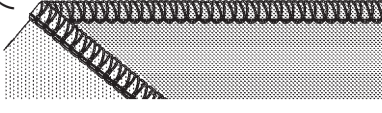
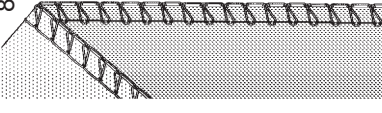



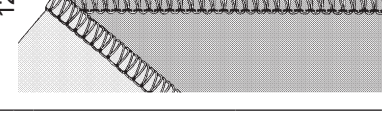
2. 次に、実際に使用される布地の布切れで試し縫いをして、糸調子が正しいかを確認します。

ミシンを回して、布地を押え金の下に差し込むようなつもりで入れます（厚物以外は押え金を下ろしたままで大丈夫です）と布地は自動的におくられますので、手は布地を軽く導くだけです。縫い始めはゆっくり縫ってください。



3. 布地の端まで縫い終わっても、そのままミシンを低速でまわし、糸を後ろから軽く引っばるようなつもりで5～7cmぐらい縫い続け、その中ほどをハサミまたは糸切り装置で切ってください。

# いろいろな縫い方とミシンのセット

使用糸数	4本糸	3本糸						3本糸	2本糸			
かがり巾ダイヤルセット	-6-	6	4-	-5-	4	4-6	6	-6-	4-6			
使用針	左・右	左	右	左	右	右	左・右	左	右			
針板爪	○	○	○	○	○		○	○	○			
2本糸ルーパー							○	○	○			
糸調子 ダイヤル	左針糸	-4-	-	0-	-	-	-4-	0-	-4-			
	右針糸	-4-	-	-	-4-	-4-	-4-	-	-5			
	上ルーパー糸	-4-	-4-	-4	*-4-	*-4-	-	-	-			
	下ルーパー糸	-4-	-4-	7-	0-	-4-	0-	-4-	1-			
縫い目調整ダイヤル	2.5-3.5	2.5-3.5	3-5	2-2.5	-R-	-P-	2.5-3.5	2-3.5	1-2			
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
												
	標準縫い	標準縫い	標準縫い	フラット縫い	フラット縫い	細巾縫い	巻き縫い	ピコ縫い	強化伸縮縫い	標準縫い	伸縮縫い	巻き縫い
参照ページ	19	17	布を開けるとフラット縫いとなります。			18	17, 19		17, 18			

上表の各ダイヤルの数字は、一応の目安ですので、多少の調整を必要とすることがあります。

-4- : 4前後

0- : 0以上

\* 上ルーパーにウーリーナイロン糸使用の場合 : -2-

もう一度試し縫いをして、正しい糸調子になっているか確かめてください。

## 1 本針／3 本糸オーバーロック縫い



かがり幅 6 mm

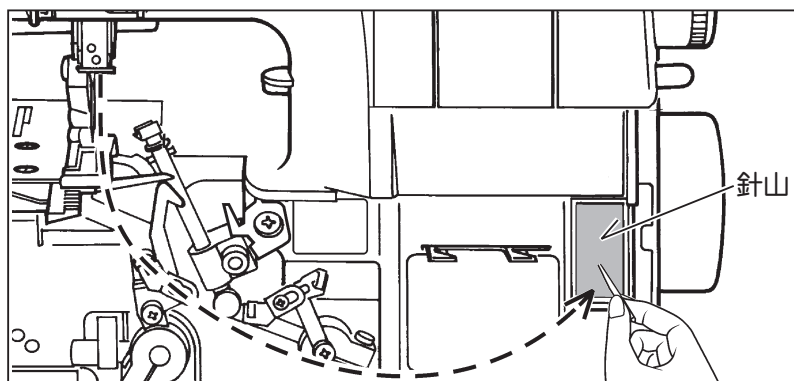


かがり幅 3.8 mm

このミシンの主要な特長は、2本針／4本糸オーバーロック縫いが出来ることですが、左又は右の針糸だけを使って、3本糸オーバーロック縫いも出来ます。

左針糸を使うと、かがり幅が6 mmになり、右針糸を使うと、3.8 mmになります。

使用しない針は 抜きとって針山に刺しておきます。



## 2 本糸オーバーロック縫い

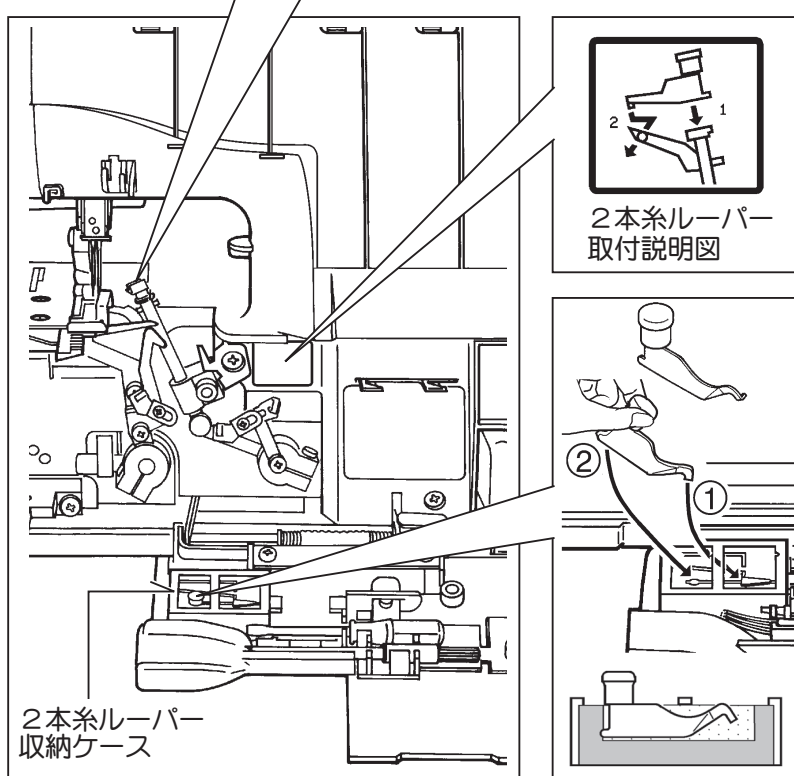
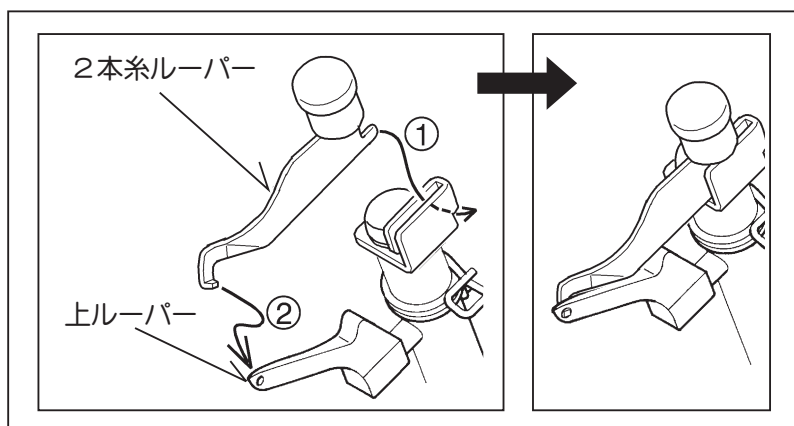


### 2 本糸ルーパーの取り付け方

メスユニットとフロントカバーを開け、プリーを回して上ルーパーを図の位置に持ってきます。

2本糸ルーパー収納ケースから2本糸ルーパーを取り出します。

図のように2本糸ルーパーを上ルーパーに取り付け、固定します。



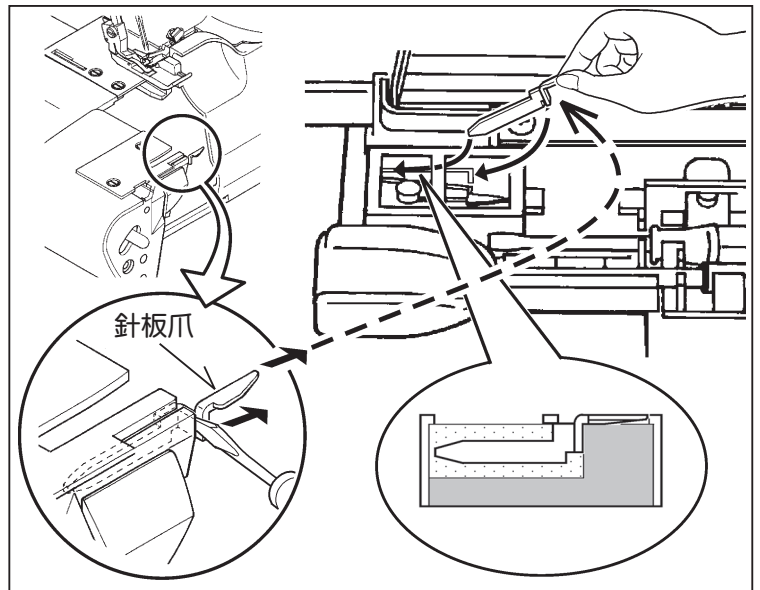
2本糸ルーパーを使用しない時は、図のように①、②の順で収納ケースへしっかりと押し込んでください。

## 細巾縫い、巻き縫い、ピコ縫い

1. 押えを上げ、フロントカバーとメスユニットとを開けます。
2. 針板爪を針板よりはずし、フロントカバーの所定位置に格納しておきます。
3. 右針を使用します。
4. かがり幅調整ダイヤルを下記のようにセットします。

細幅縫い：4

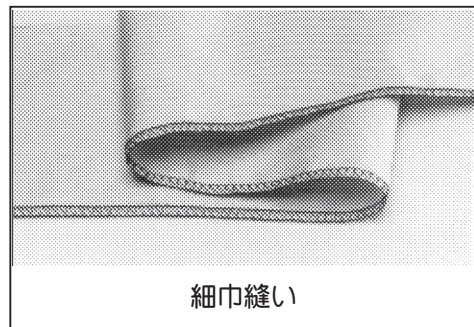
巻き縫い、ピコ縫い：4-6



### 細巾縫い

約2mmのかがり巾で折り込んだ布端を自動的にかがっていく縫い方です。縫い目が約2mmの細巾のため、厚地には向かず、主に薄地（ジョーゼット、デシン、絹など）の布端などの始末に用います。

\*糸は、針糸にテトロン No. 50、上ルーパー糸にウーリーナイロン（低伸度）を使用します。

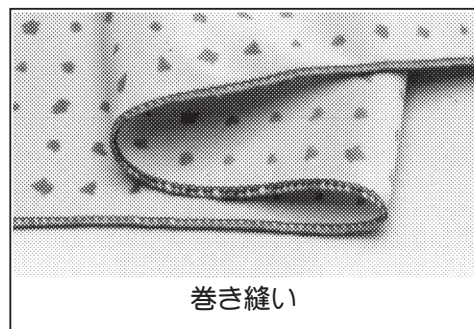


細巾縫い

### 巻き縫い

約2mmのかがり巾で自動的に折り込んだ布端を更に糸で巻くようにして、縁をかがっていきます。かがり巾が細く、更にかがり糸が密にかかる為、非常に丈夫で、また装飾効果もあり、特にフリルの布端のかがりにはかかせません。

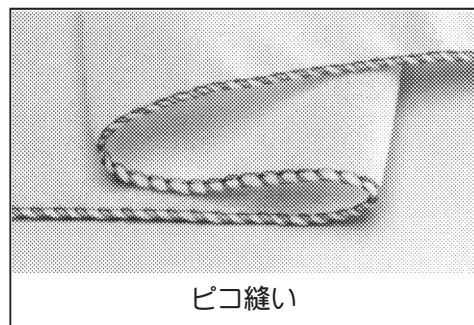
\*糸は、針糸にテトロン No. 100、上ルーパー糸にウーリーナイロン（低伸度）を使用します。



巻き縫い

### ピコ縫い

巻き縫いと同じ糸調子で、縫い目を”P”に合わせ、極薄の布を縁かがりすると、貝がらを一直線に並べたようなシェルタックの効果が得られます。これはピコ縫いと呼ばれます。スカーフなどの縁どりに適しています。

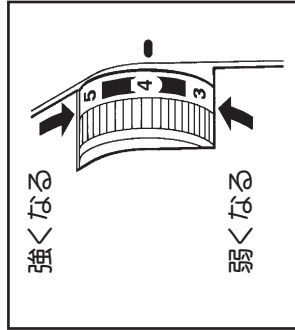


ピコ縫い

# 糸調子のとり方

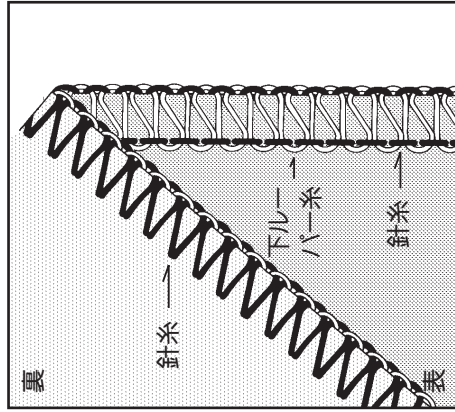
糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によってこととなります。

糸調子は、糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回すと強くなり、逆に数字の小さい方へ回すと弱くなります。実際に使用される布地と糸を使って、縫い目を見ながら各糸調子ダイヤルで調整してください。

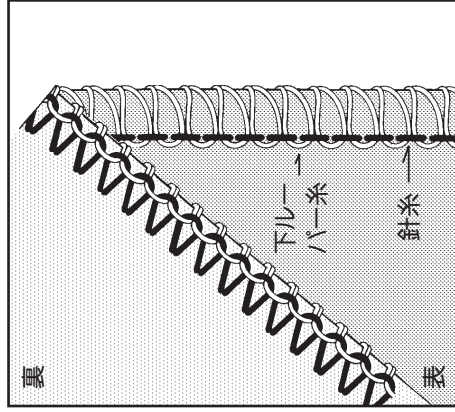


## 2本糸

正しい縫い目

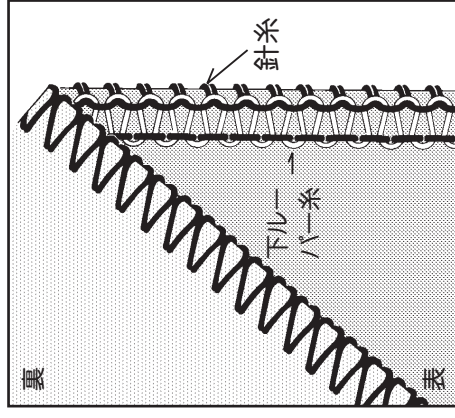


下ルーパー糸が裏側へ巻き込まれる場合



処置：下ルーパー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、左針糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

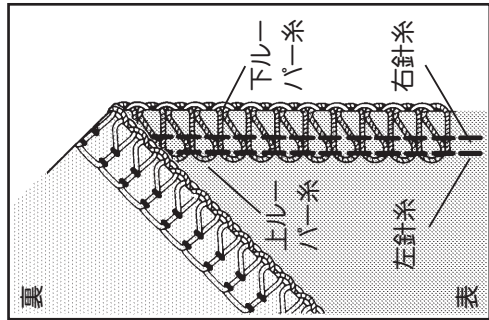
針糸が表側へ巻き込まれる場合



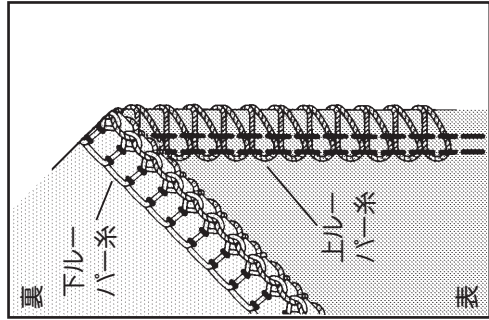
処置：左針糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、下ルーパー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

## 4本糸

正しい糸調子

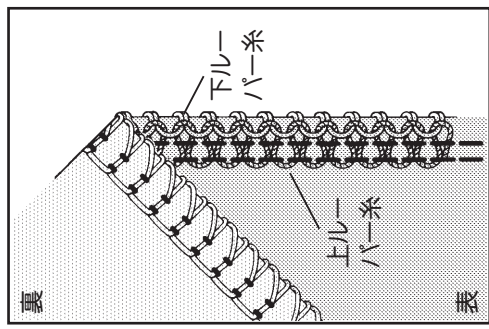


上ルーパー糸が裏側へ巻き込まれる場合



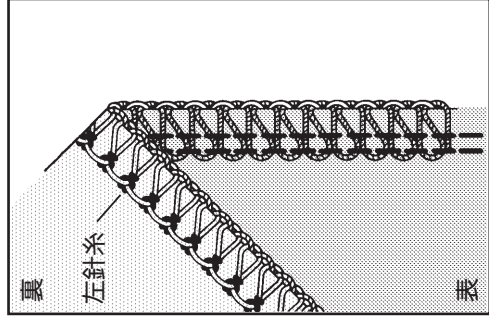
処置：上ルーパー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、下ルーパー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

下ルーパー糸が表側へ巻き込まれる場合



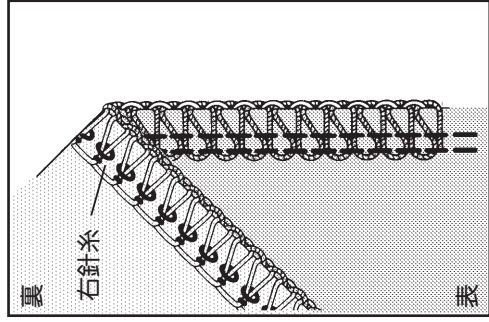
処置：上ルーパー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。または、下ルーパー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。

左針糸がゆるい



処置：左糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、両ルーパー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

右針糸がゆるい



処置：右糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。

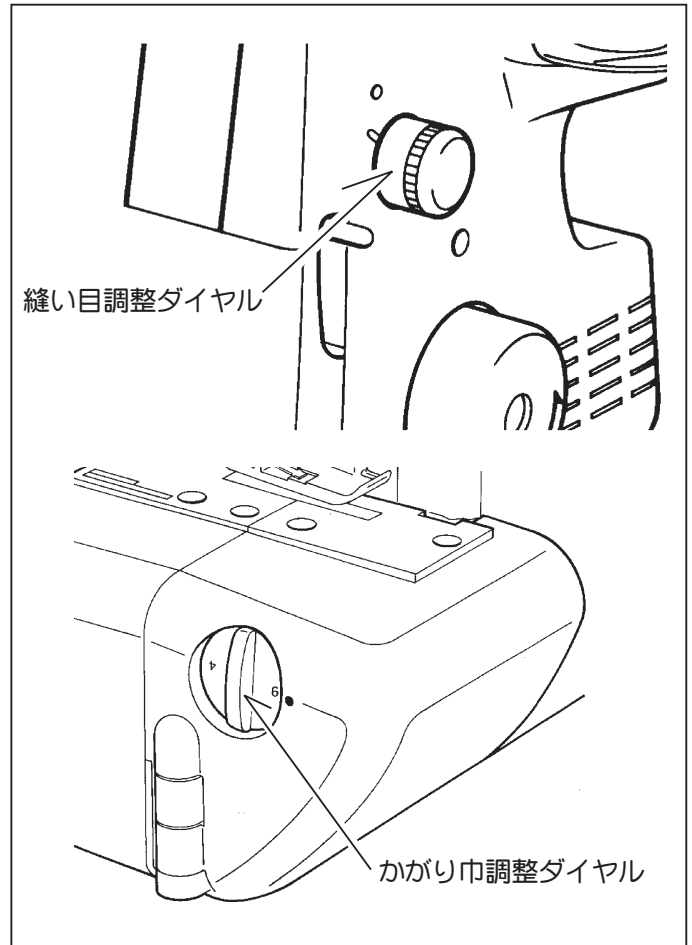
③：3本糸  
左針糸又は右針糸を除いた状態になります。

## 縫い目長さの調整

調整ダイヤルを回して、ダイヤルの目盛りを目盛り指針に合わせることで、縫い目長さを調整します。縫い目は最小1 mmから最大5 mmまで調整出来ます。

標準位置は3 mmです。

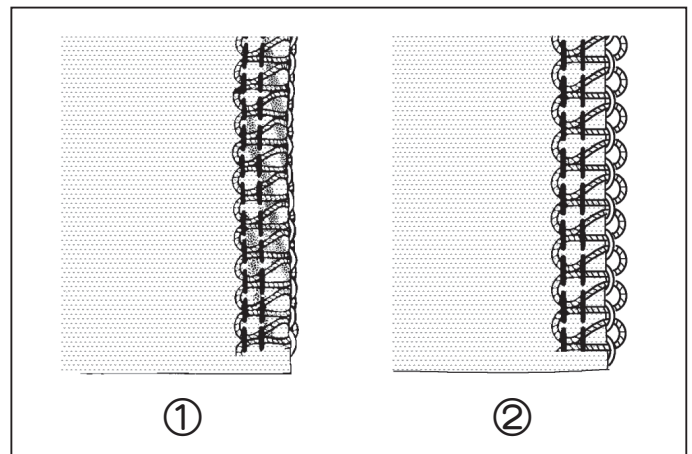
- ① 布の端がカールする場合は、縫い目長さを小さい方向に少し回してください（かがり幅の調整の図を参照）。
- ② 糸のループが布の端からはみ出す場合は、縫い目長さを大きい方向に少し回してください（かがり幅の調整の図を参照）。



## かがり巾の調整

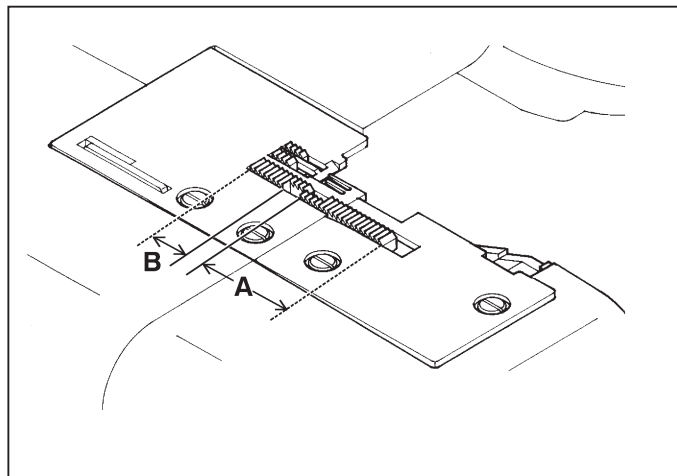
かがり巾は布の種類により4-7 mmの範囲で調整出来るようになっています。

- ① 布の端がカールする場合は“4”の方向に回してください。
- ② 糸のループが布の端からはみ出す場合は“7”の方向に回してください。



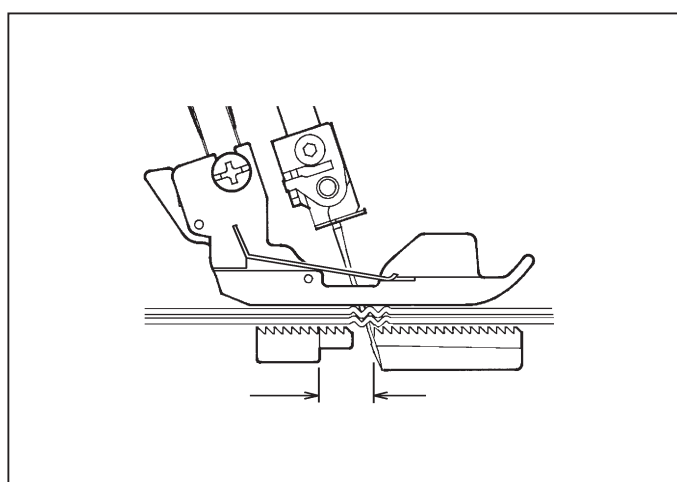
## 差動送り

差動送り機構は2個の送り歯が付いており、後ろ送り歯（B）に対して前送り歯（A）の送り量を調節することにより、布地を縮めたり、伸ばしたりしながら縫えますので、縫いじわや波打ちがなく、美しく仕上がります。



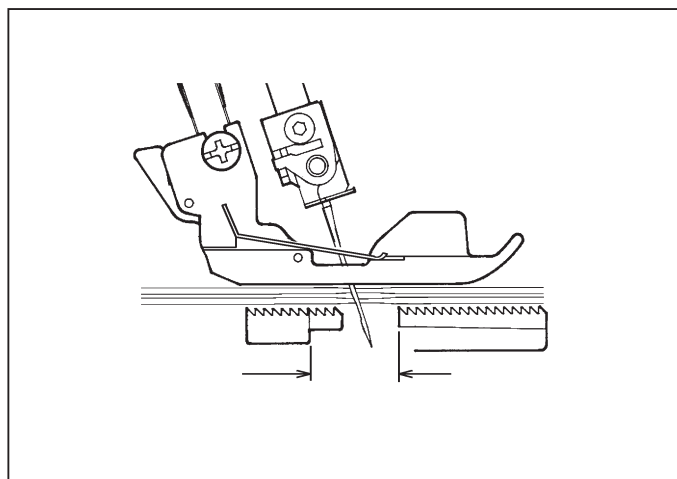
### 縫い伸びしやすい布地の場合

縫い目調整ダイヤルを「4-5」に合わせ、差動送り調整レバーを「2」の方に動かすと、前送り歯が後ろ送り歯より多く運動するので、布地の波打ちが防げます。



### 縫い縮みしやすい布地の場合

縫い目調整ダイヤルを「3-2」に合わせ、差動送り調整レバーを「0.7」の方に動かすと、前送り歯の動きが後ろ送り歯より少ないので、縫いじわが防げます。



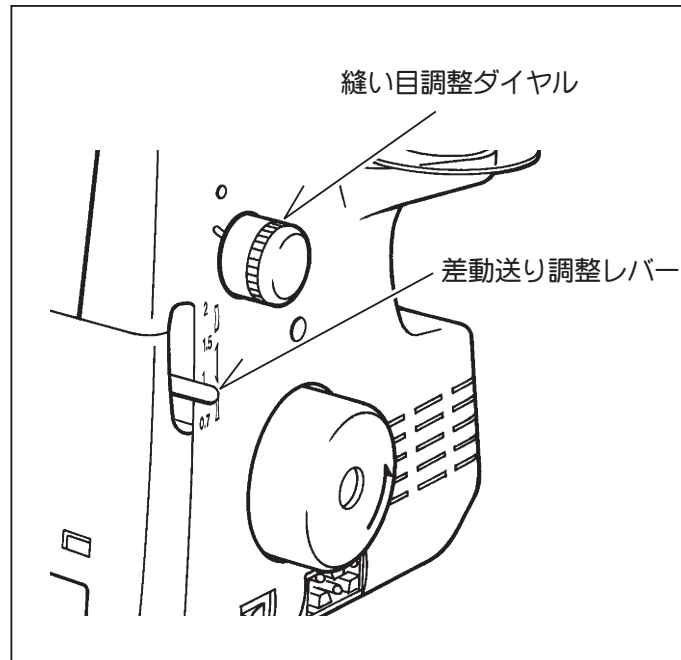
## 差動送りのセット

下記の図を参照にしながら、差動送り調整レバーを動かして調節します。

0.7から2の範囲で調節出来ます。この範囲で最良の送り量が選べます。

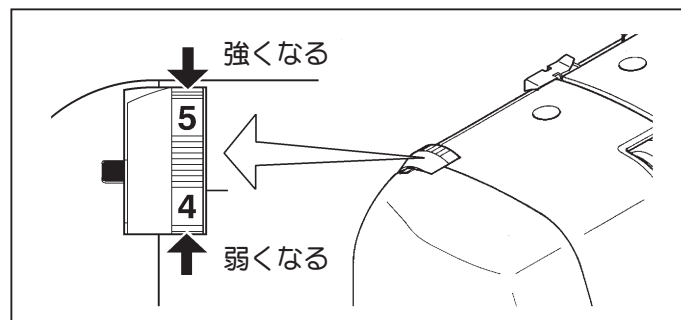
差動送りを使用しないときは「1」にセットしておきます。

布地	差動送り調整レバー	縫い目調整ダイヤル	送り比率 後歯：前歯
縫い伸びしやすい布地：ニット、ジャージ、メリヤス	1 - 2	4 - 5	┌───┴───┐
織布	1	3	┌───┴───┐
縫い縮みしやすい布地：リネン、ジョーゼット、サテン、ローン	0.7 - 1	3 - 2	┌───┴───┐



## 押え圧力調節ダイヤル

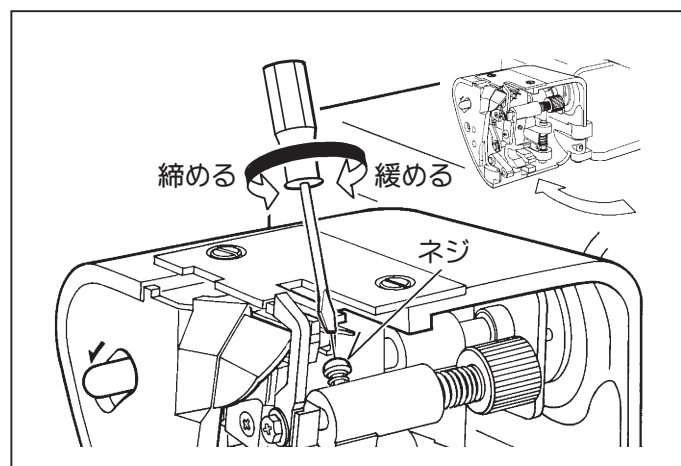
押え圧力は、厚物から薄物まで十分縫えるように調節してあります。通常の場合は調節の必要はありませんが、縫い伸びしやすい布地、ニット地は押え圧力を弱くしてください。



## 極厚地や重ね縫いをする場合

極厚地や重ね縫いをする場合は、図のようにメスユニットを開け、ネジを締めてください。

通常の場合、又かがり巾調節ダイヤルを回す場合は、メスの切れ味が悪くなる場合がありますので、ネジを緩めておきます。

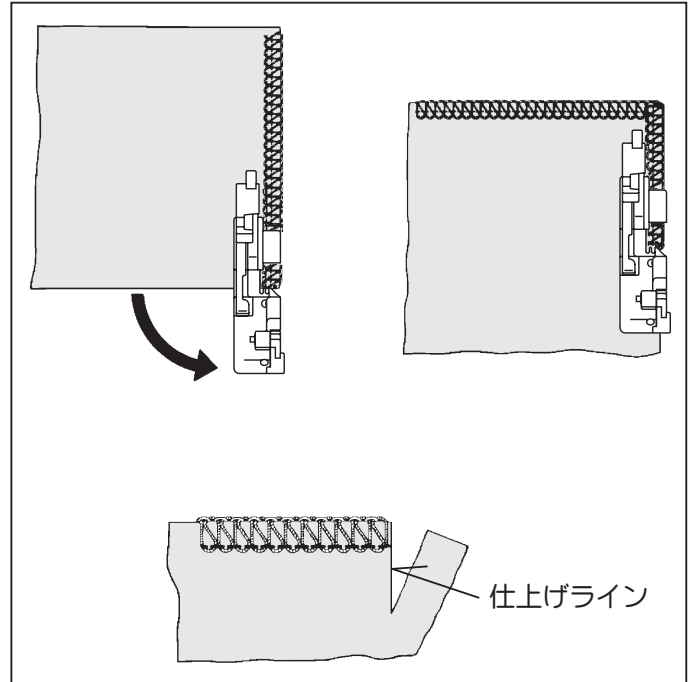




## 基本的なテクニック

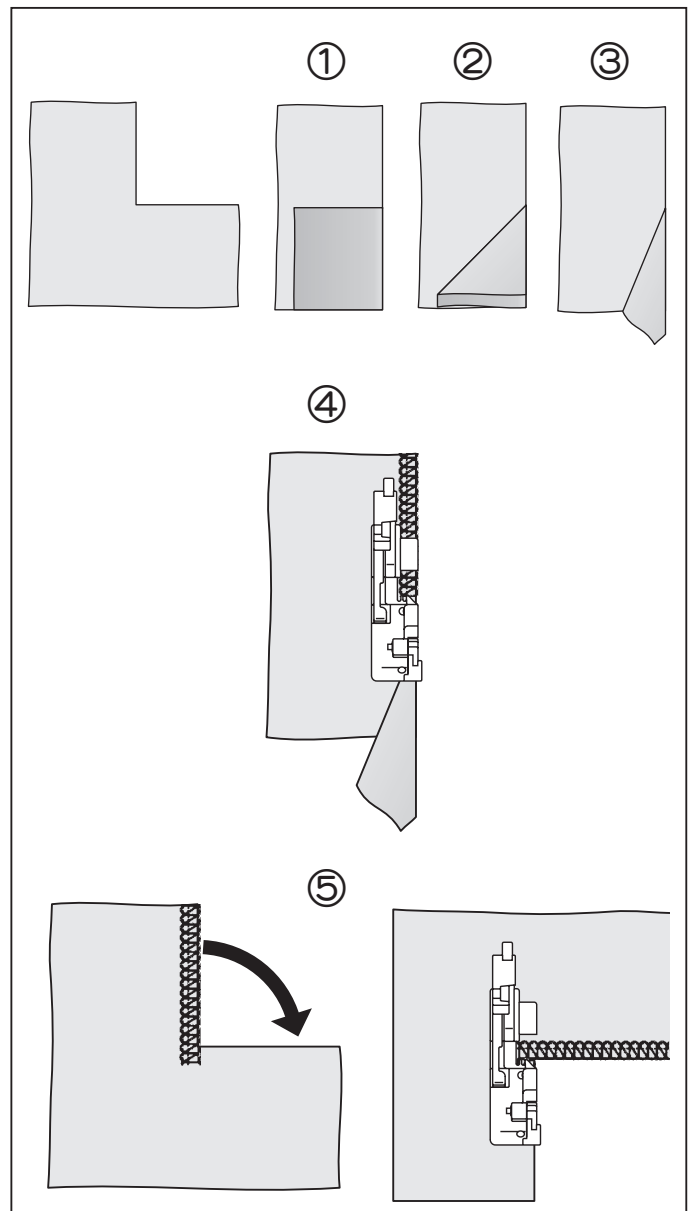
### 外角縫いの手順

1. 角まで縫い、針を上げて止めます。
2. 押え金を上げて、押え金と針板の突起にからんでいる糸をソッと引きすぎないようにしてはずします。そして布の向きを静かにかえて押え金を下ろし、再び縫い始めます。
3. 布をカットしながら角縫いをする場合は 前もって角の部分を3cmぐらい仕上げラインに沿って切っておきます（布の向きを変えたときにメスが布を切り始める周辺まで）。



### 内角縫い

1. 内角の布を直線になるように半分にたたみます。
2. たたんだ布をさらに半分にたたみます。
3. もう一度半分にたたみます。
4. 布を押えの下にセットし、内角部分から2針先まで縫ってミシンを止めます（可動メスを開放しておく作業が容易になります）。
5. 押えを上げ、布を方向転換し、たたんだ布を広げて次の布端を縫います。



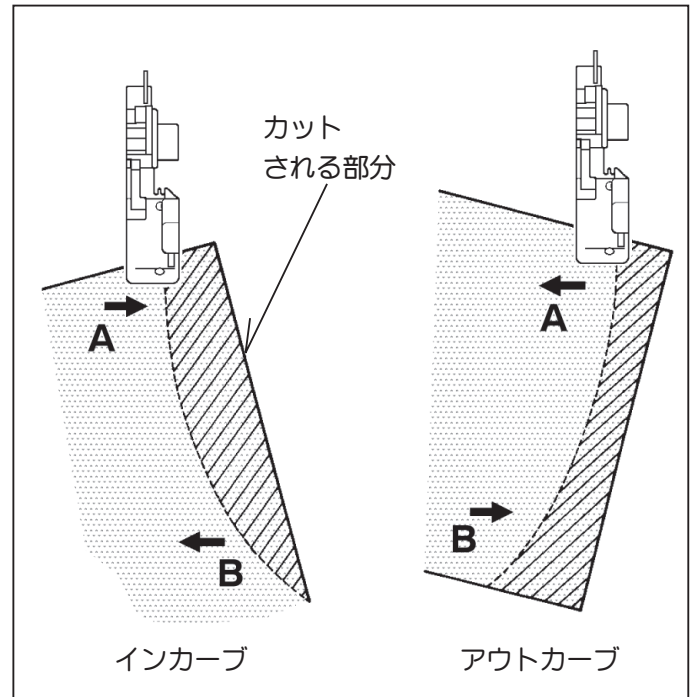
## カーブ縫い

### インカーブの縫い方

布地を押え金の右前端（または、少し左側）のところに縫い上がり線が来るように、A点のところを上から左手で押えるようにして、B点のところは右手で布地をつまんで、どちらも矢印の方向に布地を押し出すようにしながら布地の縫い上がり線が直線的になるように布地を導きます。

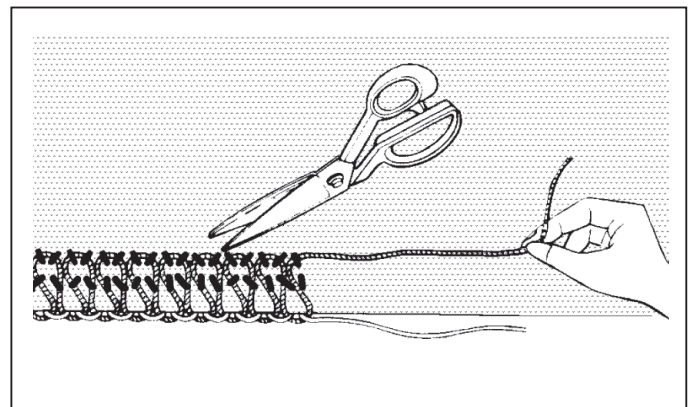
### アウトカーブの縫い方

インカーブの縫い方とは、A点、B点の布地を押し出す方向が逆になりますが、その他はインカーブの縫い方になります。



## 縫い目の解き方

縫いまちがえたりして縫い目を解く場合は、針糸のところどころをハサミで切り、ルーパー糸を引れば簡単に解けます。



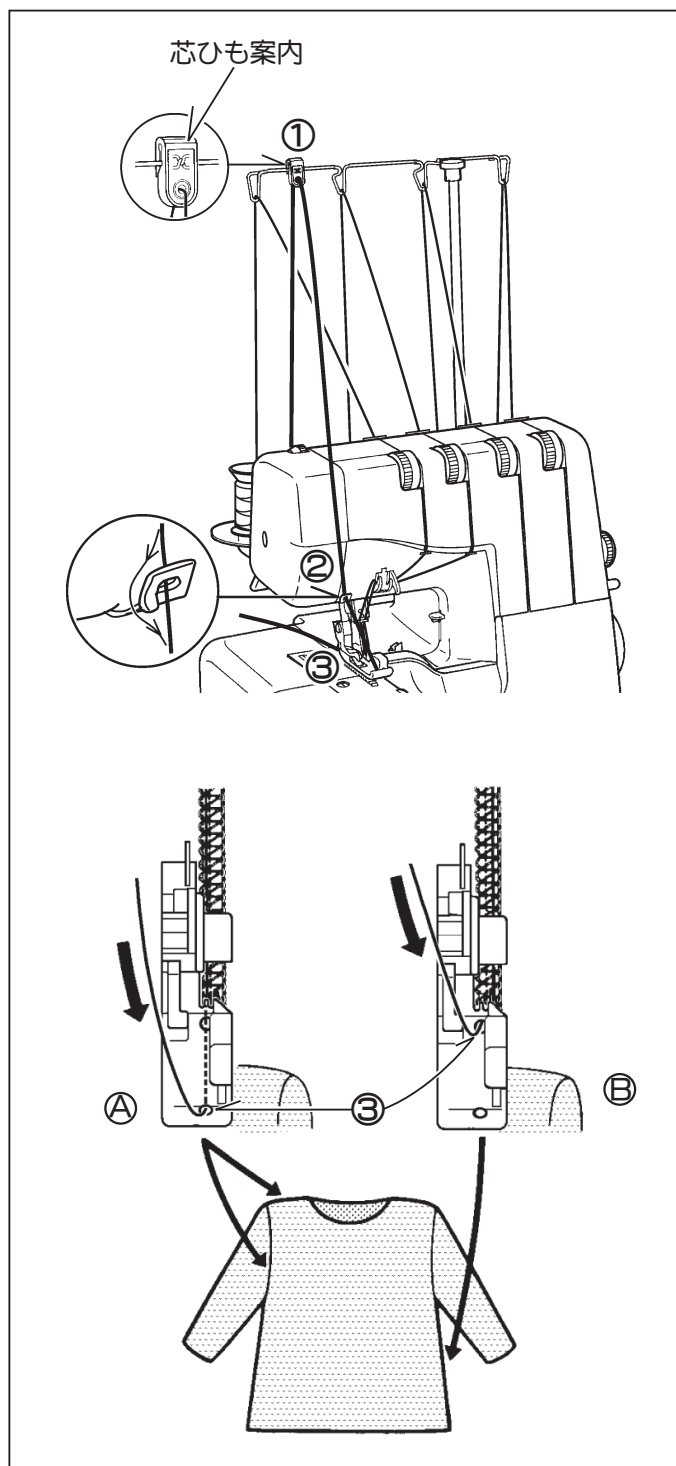
## 芯ひも入り（強化）縁かがり縫い

袖付け、肩縫い、脇縫いをするとき、伸び止めテープ、芯ひも（毛糸、穴糸、レース糸）を入れて縫うと、丈夫に仕上がります。

1. 糸案内棒に芯ひも案内がついていることを確認します。
2. 伸び止めテープ、芯ひもをミシンの後ろに置き、①、②、③の順に通します。
3. 伸び止めテープ、芯ひもを押え金の前または後ろの穴に通し、押えの下部から後部へ引き出しておきます。

袖付け、肩縫いをするときは、前の穴に伸び止めテープ、芯ひもを通して縁かがり縫いをし、左・右針糸の間に伸び止めテープ、芯ひもが固定されるようにします。（A）

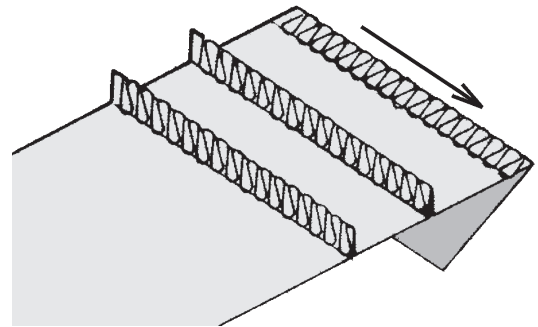
脇縫いをするときは、後ろの穴に伸び止めテープ、芯ひもを通し、右針糸の右側に伸び止めテープ、芯ひもが固定されるようにします。（B）



## 飾り縫い

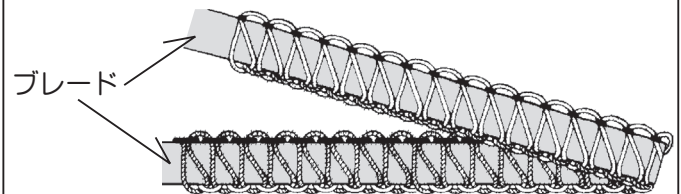
### ピントック

装飾に、または布幅をつめるのに用いられます。折り山をメスで切らないように注意してください。



### 飾りブレード

ブレードを両手で引っ張りながら縫っていきます。

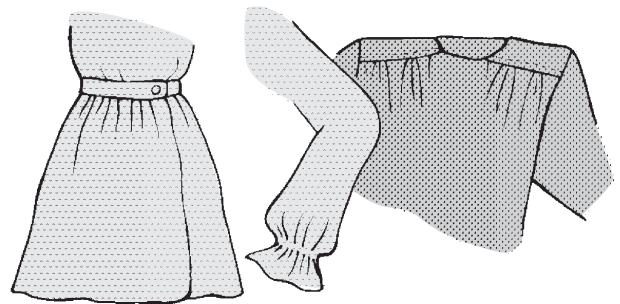


### 差動送りを使ったギャザーのよせ方

差動送り機能を応用して薄手の布地にギャザーよせが簡単に出来ます。

差動送り調整レバーを“1.5~2”、縫い目調整ダイヤルを“4-5”にセットします。

袖、裾、レース、ヨーク、フリル等に使えます。

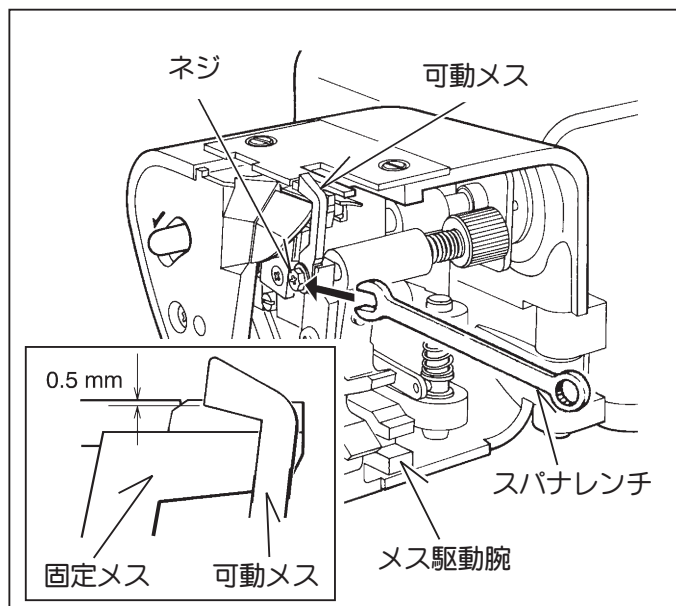


### 3. ミシンの手入れ

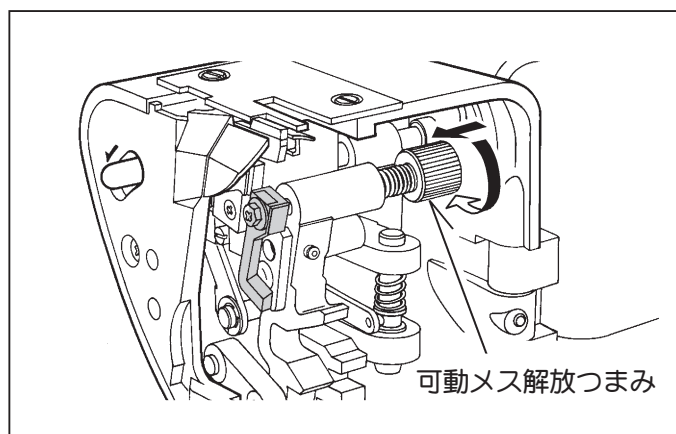
#### 可動メスの取りかえ方

はじめに、必ず電源プラグを抜いてください。

1. メスユニットを開け、スパナレンチでネジをゆるめて、可動メスを取りはずします。
2. プーリーを回し、メス駆動腕を最下点に持ってきて、可動メスの刃先が固定メスの刃先の上面からおよそ0.5mm下がるようにセットし、ネジを締めます。



④注: 可動メス解放つまみを左へ押しながら、手前に回転させると、可動メスが固定メスより解放されます。

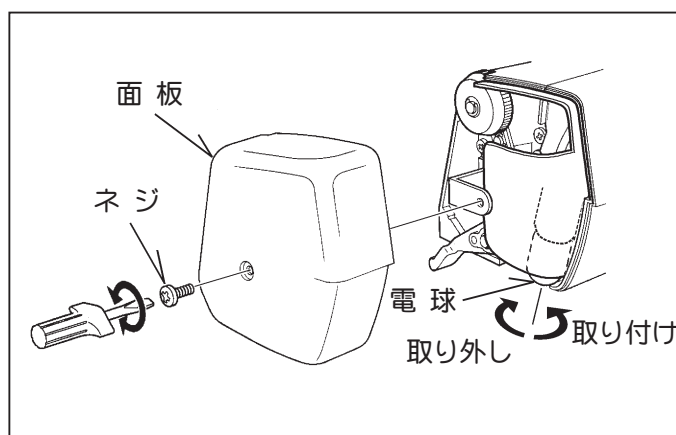


#### 電球の取りかえ方

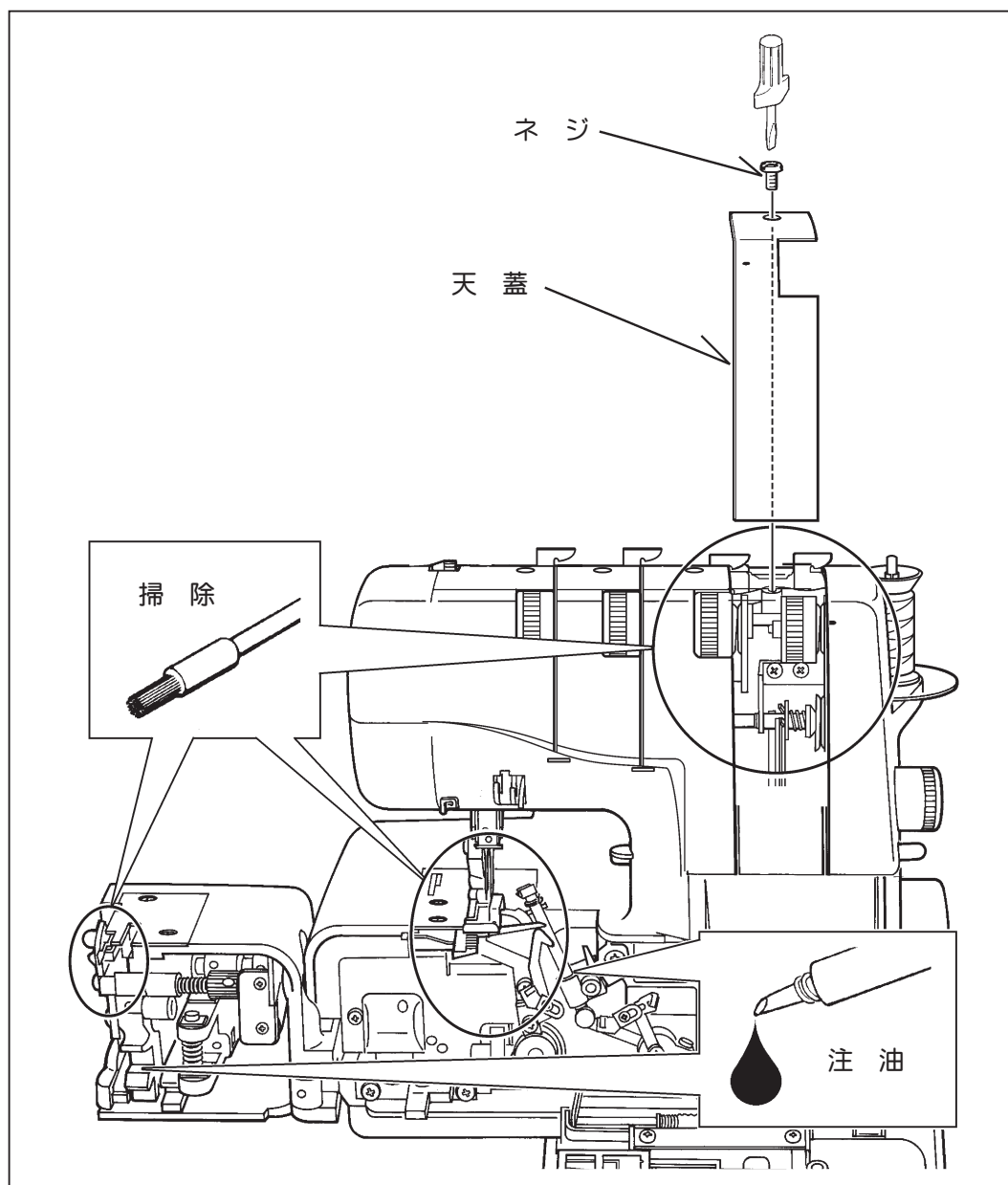
1. 電源プラグを電源から抜いてください。
2. ネジを外し、面板を取り外します。
3. 電球を左に回して取り外し、新しい電球（110V、15Wネジ込み式）を右に回して取り付けます。

④注: 15W以上の電球は使用しないでください。

4. 面板を元の位置に取り付けます。



## 掃除と注油



はじめに、必ず電源プラグを抜いてください。

1. メスユニットを開けて、メスユニット内部、針板とルーバーの間の糸くずやほこりを付属のブラシで取り除いてください。
2. 4個所の天蓋のネジをゆるめて外し、内部の糸くずやほこりを付属のブラシで取り除いてください。
3. 矢印で示した箇所に1～2滴注油してください。
4. 汚れた箇所は柔らかい布でかるく拭き取ってください。

## 4. ミシンに異常がある場合

状 態	原 因	処 置
縫い目の調子が悪い	糸の通し方がまちがっている。 糸調子が合っていない。 違うサイズの針を使用している。 布地を無理に引っぱった。 押え金がしっかり取りつけられていない。	正しく糸を通してください。(11、12、13ページ) 糸調子を調整してください。(16、19ページ) 布地に合った針に交換してください。(10ページ) 手は布地が曲がらないよう導くだけにしてください。 押え金を正しく取りつけます。(9ページ)
針が折れる	針の取り付け方が間違っている。 曲がった針を使用している。 布地を無理に引っぱった。 押え金がしっかり取りつけられていない。 違うサイズの針を使用している。	針を正しく取りつけてください。(10ページ) 針を交換してください。(10ページ) 手は布地が曲がらないよう導くだけにしてください。 押え金を正しく取りつけます。(9ページ) 布地に合った針に交換してください。(10ページ)
布地が縮む	糸調子が合っていない。 曲がった針を使用している。 先端がつぶれた針を使用している。 差動送りを使っていない。	糸調子を調整してください。(16、19ページ) 針を交換してください。(10ページ) 針を交換してください。(10ページ) 縫い目を「3-2」、差動送り調整レバーを「1」以下にセットしてください。(22ページ)
波打ち	差動送りを使っていない。 押え圧力が強い。	縫い目を「4-5」、差動送り調整レバーを「1」以上にセットしてください。(22ページ) 押え圧力を弱める。(22ページ)
縫い目がとぶ	曲がった針を使用している。 先端がつぶれた針を使用している。 針の取り付け方が間違っている。 糸の通し方がまちがっている。 違うサイズの針を使用している。 針糸の糸調子が弱い。	針を交換してください。(10ページ) 針を交換してください。(10ページ) 針を正しく取りつけてください。(10ページ) 正しく糸を通してください。(11、12、13ページ) 布地に合った針に交換してください。(10ページ) 針糸の糸調子を少し強くする。(19ページ)
糸が切れる	糸の通し方がまちがっている。 曲がった針を使用している。 先端がつぶれた針を使用している。 針の取り付け方が間違っている。 糸調子が強すぎる。 糸案内棒が上まで伸びていない。	正しく糸を通してください。(11、12、13ページ) 針を交換してください。(10ページ) 針を交換してください。(10ページ) 針を正しく取りつけてください。(10ページ) 糸調子を調整してください。(16、19ページ) 糸案内棒を上まで伸ばしてください。(7ページ)

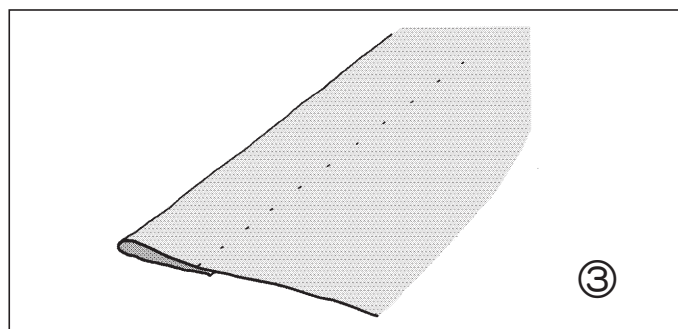
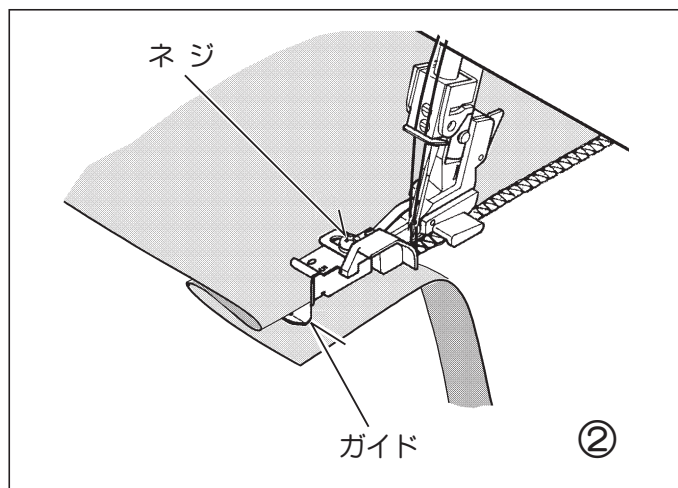
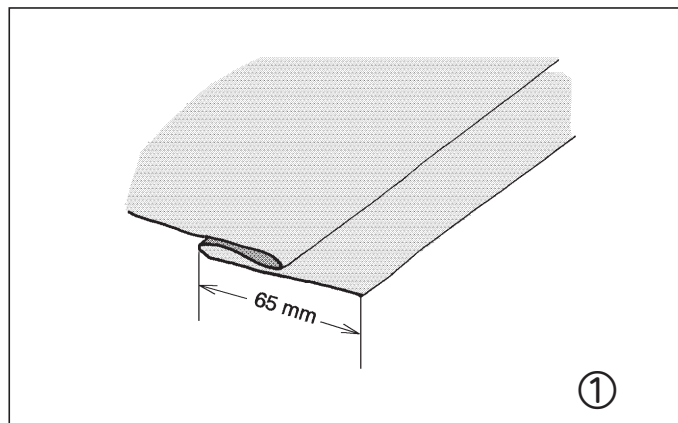
## 5. 別売付属品

### まつり縫い押え (0.5mm用 - No. 77022) (1mm用 - No. 77023)

厚い布地から薄い布地まで、布の裁断、裁ち目かがりと同時にまつり縫いが出来ます。

まつり縫い押えには2つのサイズがあります。薄手あるいは普通の布地には、0.5mmの押えを使用し、普通あるいは厚手の布地には1mmのまつり縫い押えを使います。

折り山をわずかに刺すようにガイド調節ネジで微調整します。



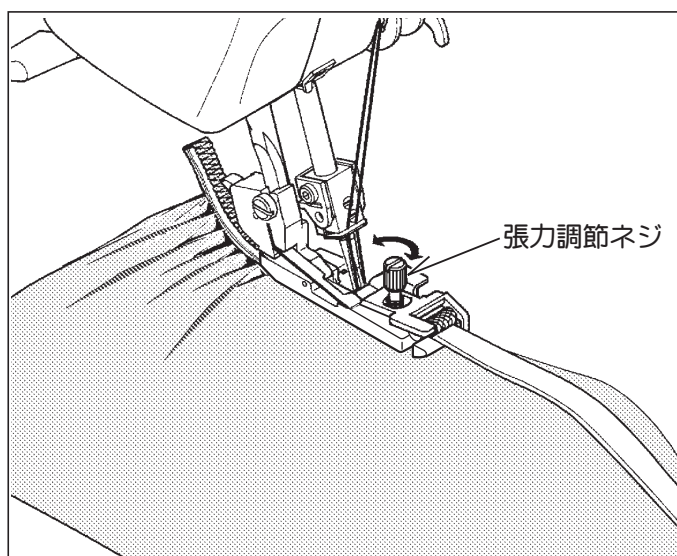
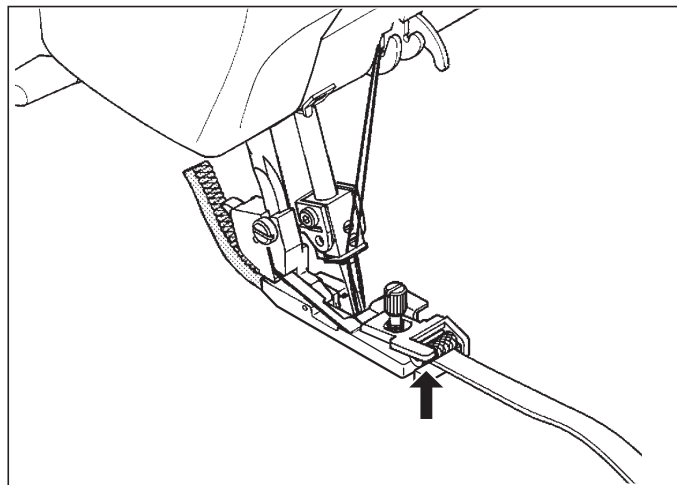


## ゴム付け押え (No. 77027)

衣服の裾などのゴムテープ付けが簡単に出来ます。ゴム張力調節ローラーが付いているので、面倒な手作業を必要とせず、均一で美しい仕上がりが得られます。

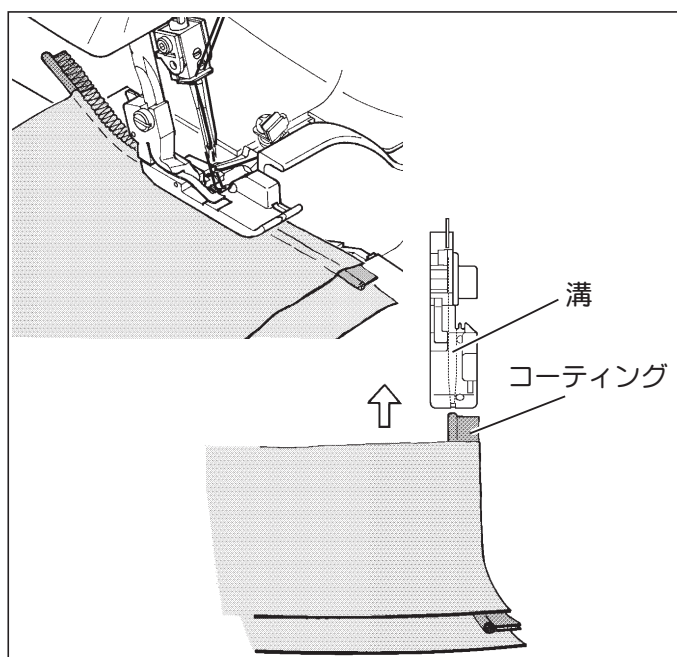
ゴムテープを少し縫った後、布を押えの下に入れ一緒に縫います。

ギャザー量は張力調節ネジで調整します。



## パイピング押え (No. 77007)

パイピングテープのみを少し縫った後、パイピングテープの上下に布をはさみ、バイアステープでコードをくるんだコーティングの上下に布をはさみ、コード部分を押えの溝に入れながら縫っていきます。えり、ポケット等の飾りに使います。



## ギャザー押え (No. 77059)

### 1. ミシンのセット

- \*全ての糸網子タイヤル - 4
- \*差動送り調整レバー - 1.5-2.0
- \*縫い目調整ダイヤル - 4-5

### 2. 最大のギャザー量を得るには

縫い目 - 5、差動送りレバー - 2

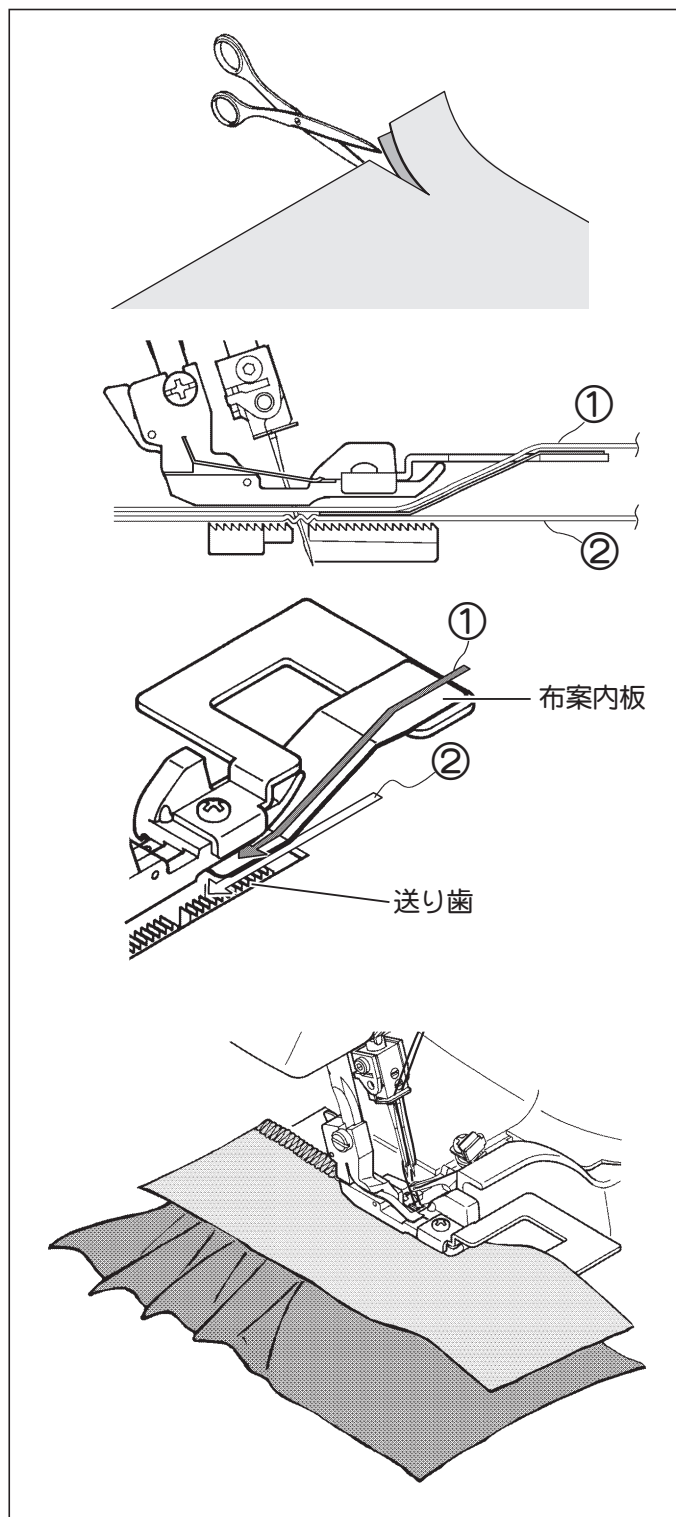
二枚の布の端から1.5cmの所を4cmほどはさみで切り込みを入れます。

- ### 3. ギャザーする方の布②を押えと送り歯の間に差し込み、もう一枚の布①を布案内板と押えの間に入れます。切り込み脚部分は押えのコの字部分に差し込みます。

- ### 4. プーリーを回して4-5針縫い、2枚の布に正常に縫いが形成されるか確認します。

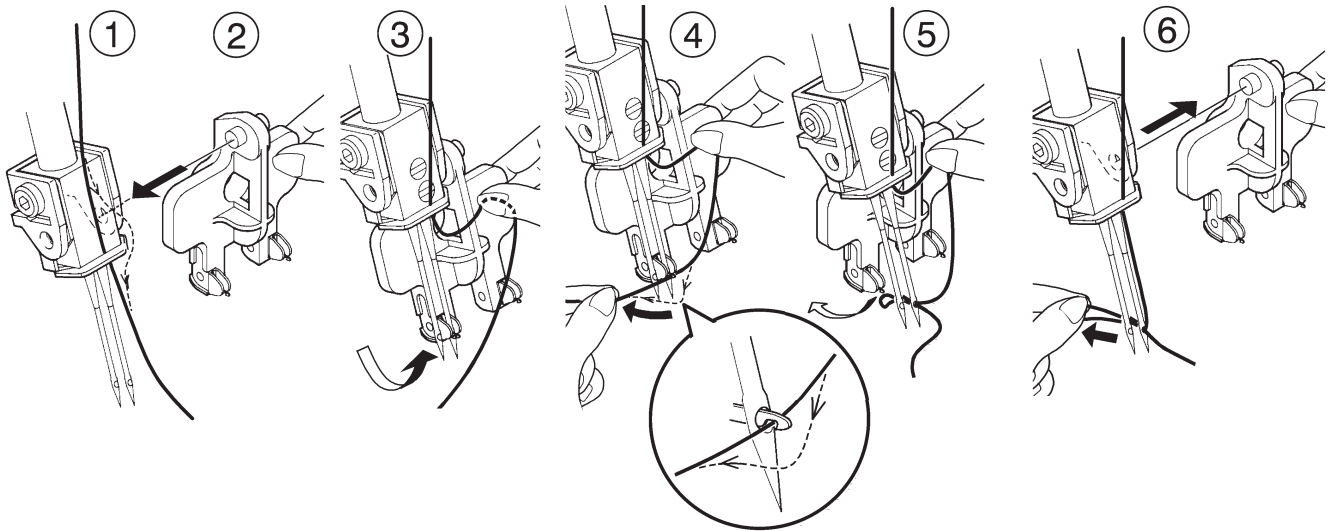
- ### 5. 両手で布を案内しながら縫っていきます。

注意：下の布が上の布より早く送られて、ギャザーが出来ます。

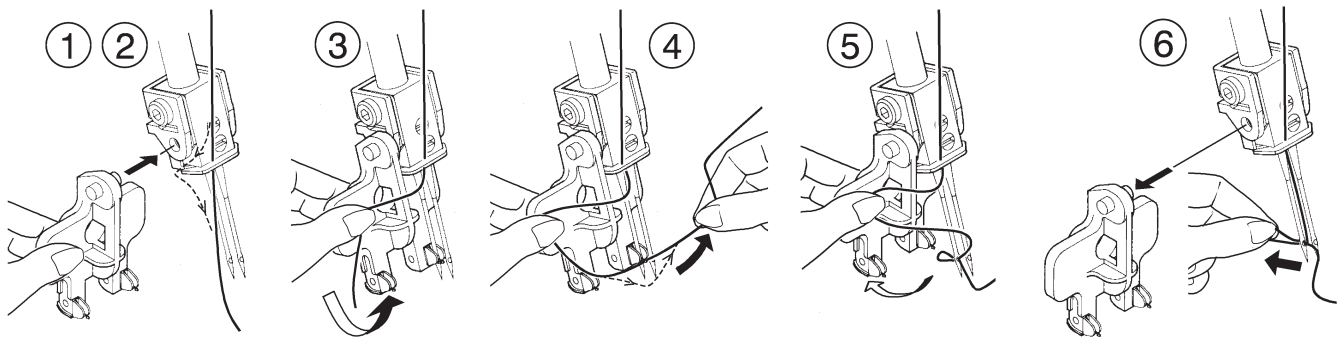


## 針糸通し器の扱い方

### 右針糸通し



### 左針糸通し



1. 針棒糸案内に 図のように糸をかけます。

押え上げを上げプーリーを手前に回し、針を最上点にして糸を10cmぐらい引っ張ります。

2. 押え上げを下げます。糸通しのカギが針穴に入るようにしながら糸通しをセットします。

3. 糸通しと糸を片手で持ちます。

4. もう一方の手で、糸を糸通しカギに引っ掛け、引っ張ります。

5. 糸通しを後方へずらします。糸を引っ張っていた手を離します。

6. 糸通しを針棒から取り外し、糸を向こう側へ引っ張り出します



## 株式会社ジャガーインターナショナルコーポレーション

〒570-0011 大阪府守口市金田町2丁目55番32号

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-00-1137

つながらない場合は 電話 06-6900-1963

又は FAX 06-6902-0433